

「福岡県地域訓練コンソーシアムによる 離職者向け職業訓練コースの開発及 び検証」に係る報告書

独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構

福岡支部 福岡職業能力開発促進センター

はじめに

離職者を対象とした短期間の委託訓練や求職者支援訓練といった職業訓練プログラムは、これまで民間教育訓練機関等において実施され、そのノウハウが培われてきましたが、一方で、今後、民間教育訓練機関等を活用した委託訓練において、地域で必要な能力開発機会を確保する際には、より就職可能性を高めることができる職業訓練コースの提供が求められています。

厚生労働省の「非正規雇用労働者の能力開発抜本強化に関する検討会」の報告書（平成24年12月21日公表）においても、「身近な地域で、必要な訓練を受けることができるよう、地域の能力開発の拠点として、コンソーシアム方式で、地域の公共職業訓練機関、大学等教育機関を活用して、経済団体等と連携・協力しながら、地域や社会全体の人材ニーズを踏まえた能力開発機会を身近な場で提供していくことが必要である」として、その際には「公共職業訓練機関や業界団体等が連携・協力して効果的な訓練カリキュラム等を開発・普及させていくこと」や「民間職業訓練機関の質を向上させること」が重要な取組とされています。

また、政府の「日本再興戦略」（平成25年6月14日閣議決定）においても、「地域レベルの産学官コンソーシアムの組成による就職可能性を高める訓練コースの開発・実施等によるフリーター等の正規雇用化支援を実施する」と明記されています。

これらを踏まえ、企業ニーズ等を踏まえた、より就職可能性を高めるための職業訓練コースを開発するため、福岡職業能力開発促進センターにおいて、福岡県、福岡労働局、企業・事業主団体、労働組合、民間教育訓練機関によるネットワークを構築し、福岡県地域訓練コンソーシアム（以下「コンソーシアム」という。）を組織しました。当該コンソーシアムにおいて、次の2分野において職業訓練コースを開発し、委託訓練の実施を通じた訓練カリキュラムの検証を行い、その結果を踏まえてモデルカリキュラムとして取りまとめました。

本報告書はこれら一連の成果を取りまとめたものです。本事業の成果が、今後の職業訓練の参考となれば幸いです。

最後に、本事業の推進にあたって多大なご協力をいただいたコンソーシアム委員並びに関係各位に対し、厚くお礼を申し上げます。

目 次

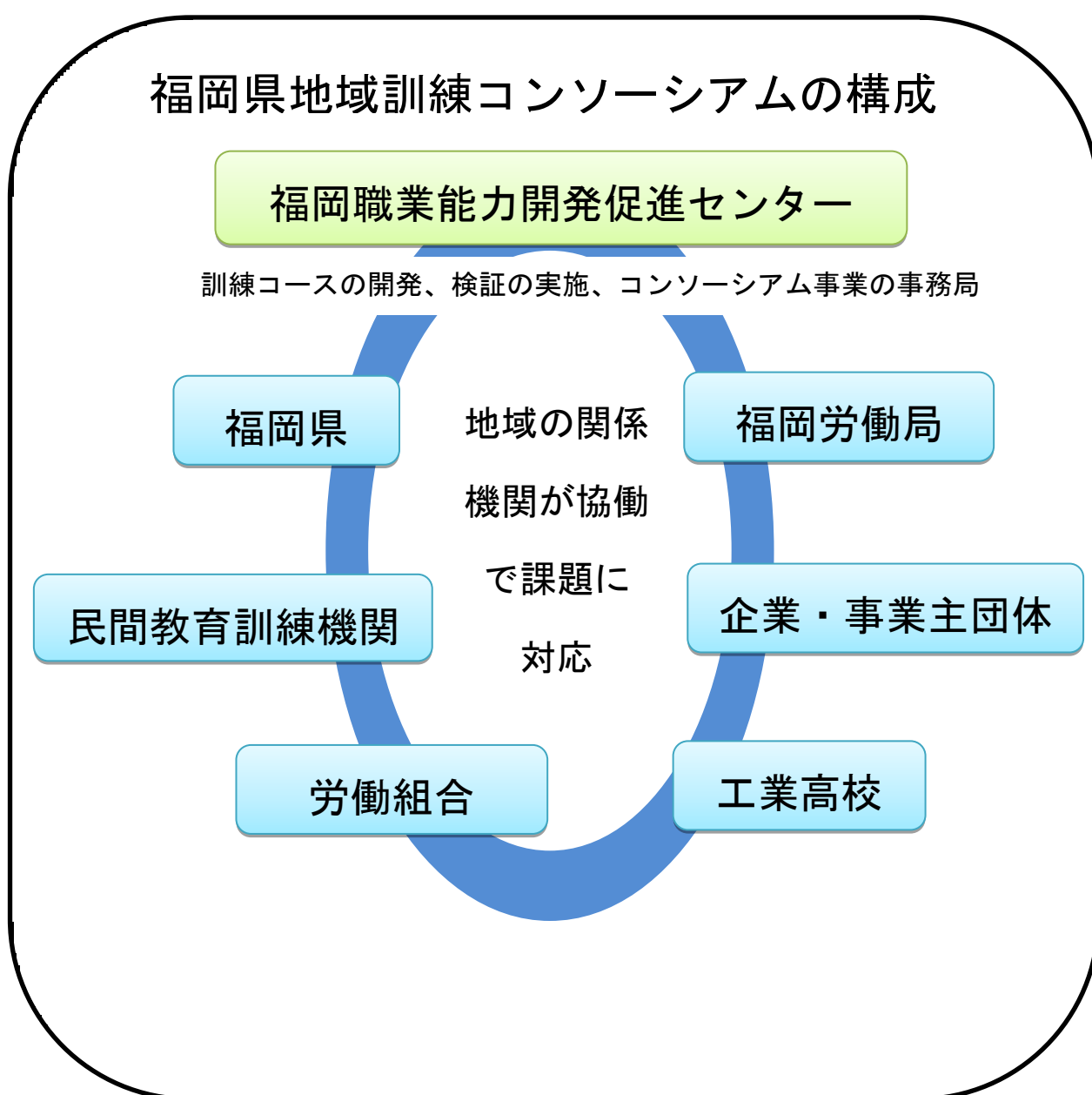
1	コンソーシアムの概要	・ ・ ・	3
2	福岡県地域訓練コンソーシアム委員	・ ・ ・	4
3	分野選定の背景	・ ・ ・	5
4	検証訓練の実施状況及び検証結果	・ ・ ・	7
5	本事業の成果物について	・ ・ ・	19
	資料集	・ ・ ・	22

- ・ 委託訓練モデルカリキュラム
- ・ 科目の内容・細目シート
- ・ 使用教材リスト

1 コンソーシアムの概要

地域の人材ニーズ等を踏まえた職業訓練コースを開発するため、福岡職業能力開発促進センターにおいて、福岡県、福岡労働局、企業・事業主団体、労働組合、工業高校関係者及び民間教育訓練機関によるネットワークを組織し、企業・事業主団体が求める知識・能力を職業訓練に取り込む連携体制（地域訓練コンソーシアム）を構築しつつ、離職者向け職業訓練コースの開発を行った。

なお、コンソーシアムの開催概要については以下のとおり。



開催回	開催日	議題等
第 1 回	平成26年 7月11日	・コンソーシアム事業の概要について ・福岡県地域訓練コンソーシアムの設置について ・開発コースの分野について ・訓練カリキュラム概要について ・今後のスケジュール及び検証訓練実施機関の公募について
第 2 回	平成26年11月10日	・検証訓練カリキュラムについて ・検証訓練の受講者募集等について
第 3 回	平成27年 9月 9日	・福岡県地域訓練コンソーシアム設置要綱の改正について ・離職者向け委託訓練コースの実施状況について ・在職者向け訓練コースの開発について
第 4 回	平成28年 3月 2日	・離職者向け職業訓練コース（検証訓練）の結果報告について

2 福岡県地域訓練コンソーシアム委員

座長 福岡職業能力開発促進センター所長
 福岡県福祉労働部労働局職業能力開発課
 福岡労働局職業安定部地方訓練受講者支援室
 福岡地区型枠工事業福友会
 日本証券業協会九州地区協会
 福岡県商工会連合会
 福岡県中小企業団体中央会
 福岡商工会議所商業・雇用支援グループ
 日本労働組合総連合会福岡県連合会
 一般財団法人福岡県専修学校各種学校協会
 福岡県教育庁教育振興部高校教育課

3 分野選定の背景

福岡県において開発する離職者向け訓練コースとして、県の産業施策及び求人・求職者の動向を踏まえ、県の要望を取り入れ、建設分野、資産運用分野が候補となった。

上記2分野について、業界の要望や求人・求職のニーズ、福岡県内において委託訓練として、より就職可能性が高まる訓練コースの開発が可能であるか、関連職務への就職率が高まるか等の視点から検討し、福岡県地域訓練コンソーシアムにおいて、候補2分野の承認を行った。

●資産運用分野

アベノミクス効果により国内景気は回復の兆しが見られ、2014 年からNISA（少額投資非課税制度）が始まるなど国民の間にも投資ニーズが高まる傾向にある。

近年、金融庁も予防的アドバイスの導入を踏まえた新しい金融リテラシーの概念の確立と、その概念の普及を図っている。このような背景のもと、国民の資産運営を公正な立場でサポートする資産運用士の必要性は年々高まっていると考える。

九州財務局においても、地域の住民の方々を対象に、金融商品が多様化するなかで金融商品の選び方や金融広告の注意点に触れながら、生活設計・資産運用の在り方について考えてもらうためのシンポジウムを金融庁と共同で開催している。

求人企業の動向については、金融、不動産業において、女性やキャリア・スキル・経験が多様な人材を求める傾向が強い。特にプランナー等には女性特有のきめ細かさが適しているという声もある。

福岡県では、委託訓練として実施しているファイナンシャルプランナー科への応募は平均2倍以上あるが、関連職種への就職が他の訓練科に比べて低い状況にある。そこでファイナンシャルプランナーに関する訓練に、新たな要素（外務員）を加え、さらに必須となるパソコン技能を組み合わせることで、資産運用の即戦力の人材を養成して欲しいという要望がある。

今回、上記の要素を加えて既存コースをブラッシュアップすることで、資産運用に関する幅広い知識と技能を併せ持つ即戦力の人材を養成し、関連職種への就職アップにつながると考えられる。

以上の理由からコンソーシアムにおいて、検証訓練で開発する分野として資産運用分野を選定した。

（日本証券業協会九州地区協会からの意見）

資産分野については、年金問題も含め将来のお金の不安を感じている方が多いため、資産運用アドバイスのニーズはある。大手証券会社では希望地域限定採用も増えているので、本事業の取組みが少しでも力になればいいと感じている。

また、証券を取り扱う社員は、コールセンターであっても外務員資格がないと業務を行うことができない（金融証券取引法の関係）。

資格を保持していない社員は、専門学校に委託して資格取得させているが、新たに採用する社員については必須といっても良い。現在は大学生も就職のために資格を習得している状況である。

●建設業分野

建設業界で働く建設作業員の数は、建設経済研究所の2014年4月の建設経済レポートによると、ピークの1997年に685万人であったものが、2013年には503万人に減少している。また、技能労働者の高齢化が急速に進んでおり、今後熟練技能労働者の離退職により建設生産現場において量的質的な技能労働者不足が深刻化する懸念がある。このように建設業では、質的、量的に慢性的な人手不足が進行している状況にあり、建設業への就業者の確保が重要な課題となっている。

昨年度、国土交通省は、厚生労働省と連携し、「当面の建設人材不足対策」をとりまとめた。「当面の建設人材不足対策」の主なポイントとして「人材確保」・「人材育成」・「人材移動の円滑化」の3つの視点を取り上げられ、その中で建設業における実践的な能力開発の推進をはかっている。

福岡県では、平成26年度の福岡県緊急雇用創出事業臨時特例基金事業として建設業若年人材集中確保事業（4つの事業からなる）の取り組みを開始した。4つの事業は次のとおり。①建設業魅力発信事業、②建設業若年者雇用育成事業、③建設業職場定着支援ステップアップ事業、④建設業雇用管理改善相談事業。

求職者の動向と傾向について、建設業は慢性的な人手不足の状態であるが、業界が望む若年者の建設業に対するイメージは良いとはいえず、ものづくり離れの傾向と相まって、若年者の雇用が進まない傾向がある。

福岡県は、人手不足が深刻化している建設業で「建設業若年人材集中確保事業」に建設業関連団体と協力しながら取り組んでいる。この事業は、建設業に対する若年者の就業を促すもので、職業能力開発に直接関連するものとしては若年者雇用育成事業、定着支援ステップアップ事業がある。このような背景の中、県から建設技能者の人材育成の場の拡充に向けての要望がある。

就職の見通しについて建設業界は、慢性的な人手不足の状態であり、特に基礎技能を有した人材の要望は高い。

今回、資格取得をメインにカリキュラムを組み、建設業関連職種への就職可能性が高まると考えられる。

以上の理由からコンソーシアムにおいて、検証訓練で開発する分野として建設業分野を選定した。

(福岡地区型梓工事業福友会からの意見)

通常であれば一人前の技能を身につけるには5～10年はかかる。6カ月でそこまでもっていくのは難しいと思うが、基本的なことを理解し、習得するということを念頭に置いている。

こういう訓練は継続的に実施してほしい。建設現場は過酷で、最近の若者が入社しても1ヶ月もすると1割も残らない場合もある。仕事の厳しさに比べ、給与が安すぎるのも一因で、そのほか、中小企業の置かれている厳しい状況について国には知ってもらいたい。

4 検証訓練の実施状況及び検証結果

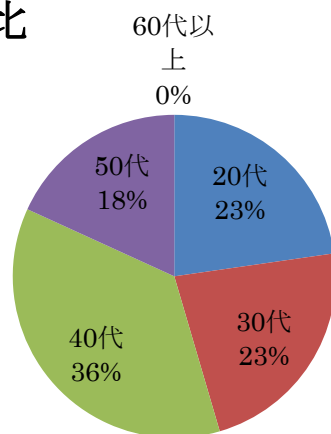
(1) 資産運用分野 ファイナンシャルプランナー科

訓練実施機関	訓練開始日	訓練終了日	訓練期間	定員
株式会社東京リーガルマインド	平成27年2月3日	平成27年7月31日	6か月	20人

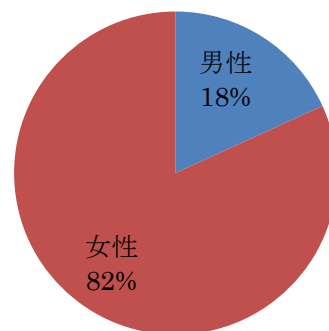
イ 応募・入所状況

応募者数	入所者数	(うち女性)	20代	30代	40代	50代	60代以上
57人	22人	18人	5人	5人	8人	4人	0人

年代比



男女比



当該検証訓練コース(定員20名)の受講者募集は12月から1月にかけて、ハローワークやわかものジョブプラザ・福岡での募集チラシ配布、ポリテクセンター福岡、福岡県、訓練委託先機関でのホームページ掲載、駅貼り広告(JR九州福岡都市圏23駅・西鉄福岡都市圏26駅)を行うなど訓練の広報に努めた。

このような活動の結果、離職者の求職活動が活発でない時期にも関わらず、当該科の応募には57名の応募があり、科の定員の増員を行って22名の入所

募集チラシ

2月開講 受講者募集！

ファイナンシャルプランナー科(6か月コース)

- ◆テキスト代: ¥15,498 (税込)
- ◆校外研修交通費、その他に任職の保険料・検定料など

8

ファイナンシャルプランナー科 カリキュラム

受託希望機関名 株式会社東京リーガルマインド

訓練科名		ファイナンシャルプランナー科		就職先の 職 務	金融業界 保険業界	
訓練期間		平成 27 年 2 月 3 日～平成 27 年 7 月 31 日 (6 か月)				
訓練目標		①日常職務に必要なビジネス文書作成、表計算（集計表、グラフ作成等）、プレゼンテーション用スライド等が作成できる ②資産運用分野の業務に活かせる 2 級ファイナンシャルプランナー技能士程度や二種外務員程度の知識、技能を習得する ③資産運用分野の業務に必要な日商簿記 3 級程度の簿記や財務会計の知識、技能を習得する ④日常的業務に必要なコミュニケーションスキルやプレゼンテーションスキル等を習得する ⑤相続等、資産運用に必要な税金の基礎知識を習得する				
仕上がり像		資産運用関係職種全体の基礎的職務能力を有し、資産運用職としてのリテラシーを身につけ、効果的な資産運用計画を立案・提案できる人材				
訓練 の 内 容	学 科	科 目		科 目 の 内 容		訓練時間
		入所式等 資産運用（F P 分野）	入所式、オリエンテーション、修了式 ライフプランニングと資金計画/リスク管理/相続・事業承継/ 不動産/資産設計提案業務/個人資産相談業務/中小事業主資産 相談業務/生保顧客資産相談業務/損保顧客資産相談業務/検 定対策			228
		資産運用（二種外務員分野）	金商法関係/債券関係/株式関係/投資信託関係			78
		金融・税金知識	金融資産運用/タックスプランニング/各種税金関係			90
		簿記会計知識	簿記の全体像/商品売買/現金・預金/手形取引/その他の債権 ・債務/有価証券/有形固定資産その他/主要簿と補助簿/決算 整理/精算表と帳簿の締切り/検定対策			108
		就職基礎能力	ビジネスマナー/就職活動/情報収集/応募書類の作成/対人関 係構築			36
	実 技	社会人基礎能力		職業人の心構え/ロールプレイによる演習/職業意識（協働力 ・主体性・実行力・想像力）/職場内コミュニケーション		42
		情報リテラシーⅠ（文書処理）		文書の基本操作/文字の入力と保存/文書の編集/文書の印刷、 /書式設定/グラフィックス・図形の利用/表の作成/長文作成 /アウトライン機能/差込印刷/W o r d の便利な文書作成機 能/その他アプリケーションの利用/練習問題/パソコンの使 用上の注意（V D T 症候群の予防等）		36
		情報リテラシーⅡ（表計算）		基本操作/表作成の基本/表の編集/数式と関数/グラフの作成 /ブックの利用/データベース基礎機能/ピボットテーブル/グ ラフの応用/E x c e l の便利な機能/練習問題		36
		情報リテラシーⅢ（プレゼン テーション）		スライドの作成/図・グラフ・表等の挿入・編集/プレゼンテー ション準備・発表		24
訓練時間総合計 678 時間（学科 540 時間、実技 138 時間）						
主要な機器設備 （参 考）		ホワイトボード、TVコンバーター、TVモニター、PC、				

ロ 訓練実施

(イ) 訓練内容

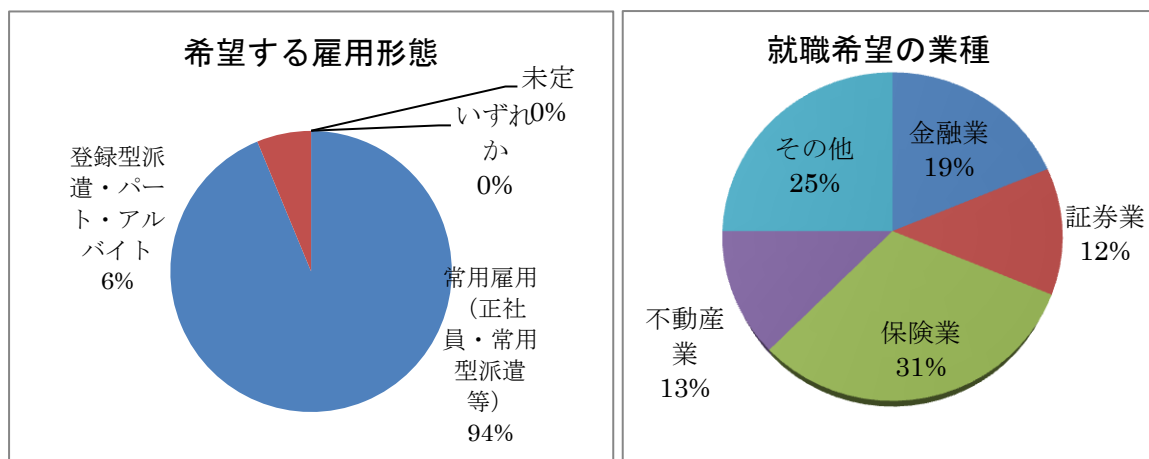
ファイナンシャルプランナー資格、外務員資格、簿記の資格試験日程に合わせる形で日程が組まれ、その間に各試験に役立つ金融・税金知識の授業や情報リテラシーの講義を織り交ぜながら訓練を実施した。

(ロ) アンケート結果

訓練期間中に訓練生に対してアンケート調査を実施した。
主な内容は次のとおりである。

○就職希望（入所3ヵ月後）について

入所3ヵ月後に行ったアンケートの結果、94%が常用雇用（正社員）・常用型派遣を希望し、就職希望先は、ファイナンシャルプランナーや外務員の資格が活かせる金融業、証券業、保険業、不動産業への希望が75%であった。その他は事務的内容の仕事希望するものである。



○科目の内容、訓練時間の長さ、習得度について

科目の内容については、簿記会計と表計算の項目で20～25%の訓練生があまり良くないとしているほかは、概ね良好であった。

訓練時間については、簿記会計と表計算の項目で短い、やや短いとした訓練生が40%ほどで、これは科目の内容の評価と連動していると思われる。

ハ 就職の状況（就職率 80.9%）

修了者数	(うち女性)	(うち就職)	中退者数	(うち女性)	(うち就職)
14人	11人	10人	8人	7人	7人

中途退所者は8人であり、就職による中途退所は常用雇用で4名、派遣1名、パート・アルバイト2名であり、自己都合退所は1名であった。

修了者は14名で訓練修了時の就職率は57.1%であったが、引き続き就職

支援を継続し、修了3か月後の就職率は80.9%、関連職務への就職率は52.9%であった。

二 検証訓練結果の分析

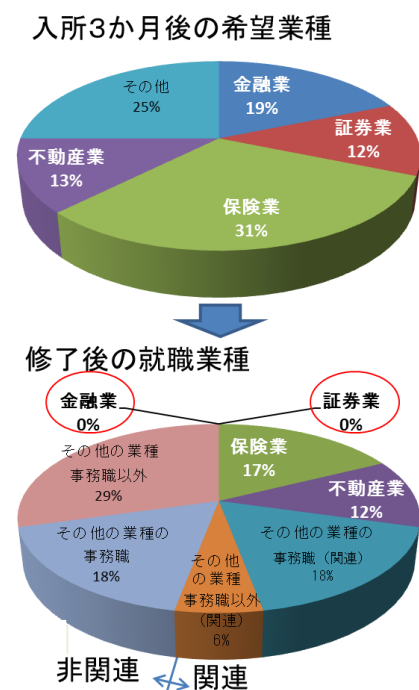
(イ) 訓練のねらいと検証結果

ファイナンシャルプランナー科の検証訓練は、訓練内容に外務員資格関連の知識、金融・税務知識などを新たに付与することで就職の間口を広げ、就職率、特に関連就職率を向上させるというものであった。しかし結果として就職率は80.9%と高い数値を示したものの、関連就職率は52.9%と高い数値にはならなかった。

(ロ) 検証結果の分析

関連就職率が低かった要因として、以下の理由が考えられる。

- ・訓練生は、当初金融業や証券業、保険業、不動産業など資格が活かせる業種での就職を希望していたが、資格を取得したものの、就職には実務経験が求められる場合が多いため、資産運用分野への即就職は難しい側面があり、希望業種に就職できた訓練生が少なかった（右図参照）。
- ・女性が多いことから、就職にあたり（次善の策として）事務職を好む傾向がある。
- ・証券業界へ就職を希望する人が少なかった。



(ハ) 改善の提案

・カリキュラム面での改善

資産運用分野への就職を希望する求職者は多数存在するので、資産運用分野への就職率が低いからといって訓練の窓口を閉ざすことはできないと考える。

訓練生は、次善の策として事務的な職務を好む傾向があることから、現行のカリキュラムの「資産運用」、「金融・税金知識」、「簿記会計知識」の知識に、新たに「オフィス事務実務」、「コンピュータ会計」に関わる、給与計算や帳簿、会計システムなどの実務を加えることで、事務職務の要素を補強し、就職後の職務により役立つものに改善し、関連就職の間口を広くする。

・訓練広報面での改善

広報時に資産運用分野の幅広い資格が取得できることをよりアピールし、外務員をはじめとした資産運用分野の職務に就きたい方々への周知をはかる。もしくは訓練科名の変更あるいはサブタイトルを検討する。

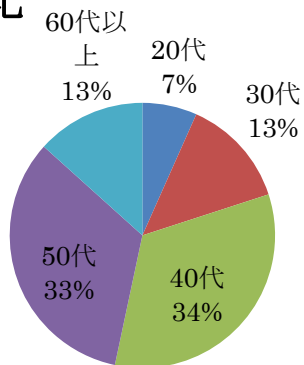
(2) 建設業分野 建設基礎人材育成科

訓練実施機関	訓練開始日	訓練終了日	訓練期間	定員
株式会社 アソウ・ヒューマニーセンター	平成 27 年 8 月 4 日	平成 27 年 10 月 30 日	3 か月	15 人

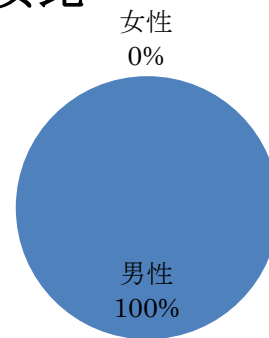
イ 応募・入所状況

応募者数	入所者数	(うち女性)	20 代	30 代	40 代	50 代	60 代以上
18 人	15 人	0 人	1 人	2 人	5 人	5 人	2 人

年代比



男女比



当初、当該検証訓練コース（定員 20 名）の受講者募集は 12 月から 1 月にかけて、ファイナンシャルプランナー科と同様に、訓練期間 6 ヶ月、2 月開講の予定で開校準備を進めた。ハローワーク、わかものジョブプラザ・福岡での募集チラシ配布などの広報に加え、駅貼り広告（JR 九州福岡都市圏 23 駅・西鉄福岡都市圏 26 駅）や求人情報誌等の媒体を使って広報を行ったものの、受講生の確保に苦戦した。募集延長を行うなどして最終的な応募者は 8 人となったが、大幅に最少開講人員（15 名）を下回ったため、やむなく開講を中止した。

中止後、再立ち上げを検討したが、業界の要望は高いが求職者ニーズがそれほど高くない職種であることから、受講生の募集で苦戦することが予想されたため、訓練内容の見直しを行った上で再立ち上げを行った。再立ち上げに際して見直しを行ったポイントは次の通りである。

- ・ 求職者ニーズの高い資格取得をメインに据えたカリキュラム概要とした。
- ・ 募集人員を 15 名とした（コスト対策：実習時に講師 1 名で対応可）
- ・ 第 2 回目のコンソーシアムで訓練期間が長いという意見があったため、期

間を3ヵ月に短縮した。訓練期間短縮に際し、求職者ニーズを考慮して型枠・鉄筋の訓練時間を削減することとした。

訓練期間の短縮に伴い、訓練カリキュラム概要、及び訓練カリキュラムの変更が必要となったため、コンソーシアム委員の承認を得て、コースの再立ち上げを行った。

3ヵ月に期間を短縮した当該検証訓練コース（定員15名）の受講者募集は6月から7月にかけて、8月開講の予定で開講準備を進めた。訓練科の広報にあたってハローワークやわかものジョブプラザ・福岡での広報に加え、県の建設業若年人材集中確保事業の受託業者に説明会での広報について協力を依頼した他、求人情報誌による広報を行った。

このような活動の結果、当該科の応募には18名の応募があり、科の定員の15名の入所で訓練を開始した。訓練生の平均年齢は48.5歳で、訓練生は男性のみの構成になった。

第1回目の募集チラシ

再立上げ時の募集チラシ

公共職業訓練のご案内 **2月開講 受講者募集!**

未来の街づくりを担う“建設業界”で働いてみよう!!

建設基礎人材育成科(6か月コース)

建設・土木工事関連の職務で活かせる、13の関連資格に関する知識・技能を習得できる。
建設業務の基礎となる型枠・鉄筋施工の知識・技能が習得できる

目標とする関連資格
フォークリフト運転技能講習、高所作業車運転技能講習、主据け技能講習、ガス溶接技能講習、研削砥石特別教育、職業安全作業特別教育、低圧電気取扱い特別教育、小型移動式クレーン運転技能講習、アーク溶接特別教育、丸のこ取扱い安全教育、粉じん作業特別教育、リスクアセスメント教育、クレーン運転特別教育
※各資格の取得は、主据団体が必要とする試験に合格する必要があります。

訓練実施場所
アソワ・ヒューマニティーセンター
〒810-0001
福岡市中央区天神2丁目8番41号 福岡朝日会館7F

コース説明会開催! お気軽にご参加ください。
※主な内容は、訓練内容の説明、主要な教材のご案内、質疑応答、施設の見学となります。

場所 アソワ・ヒューマニティーセンター
日程 12/3・12/10・12/17・12/24・H27.1/7
時間 水曜日 13:00~15:00 (個別対応も致します)
※お電話にて予約をお願いします。
TEL: 092(733)8293 滝野・浅野
受付時間 平日 9:30~18:30

訓練期間 (6か月)
平成27年2月3日(火)
~7月31日(金)

募集期間
平成26年12月9日(火)
~平成27年1月14日(水)

入所選考日
平成27年1月20日(火)

受講料・検定料: 無料

テキスト代: ¥15,336 (税込)

備考についてのお問い合わせ先
ハローワーク 福岡市中央区天神2丁目8番41号 福岡朝日会館7F
TEL: 093(622)5738

訓練内容についてのお問い合わせ先
株式会社アソワ・ヒューマニティーセンター
事業開発部 滝野・浅野
TEL: 092(733)8293

お申し込みは、各ハローワークの職業相談窓口へ

公共職業訓練のご案内 **8月開講 受講者募集!**

未来の街づくりを担う“建設業界”で働いてみよう!!

建設基礎人材育成科(3か月コース)
＜定員15名 ご相談はお早めに＞

建設・土木工事関連の職務で活かせる、9つの関連資格に関する知識を習得できる。
建設業務の基礎となる型枠・鉄筋施工の知識が習得できる。

目標とする関連資格
フォークリフト運転技能講習、高所作業車運転技能講習、主据け技能講習、ガス溶接技能講習、研削砥石特別教育、小型移動式クレーン運転技能講習、アーク溶接特別教育、丸のこ取扱い安全教育、リスクアセスメント教育 **検定料無料**
※各資格の取得は、取得に必要な講義の受講が必要です。
また、主据団体が実施する試験に合格する必要があります。

訓練実施機関
アソワ・ヒューマニティーセンター
〒810-0001
福岡市中央区天神2丁目8番41号 福岡朝日会館7F

訓練期間 (3か月)
平成27年8月4日(火)~10月30日(金)

訓練時間: 9時30分~16時10分

募集期間
平成27年6月18日(木)~7月17日(金)

入所選考日: 平成27年7月24日(金)

受講料・検定料: 無料

テキスト代: ¥20,080 (税込)

※その他: 作業服をご用意ください
職業訓練生総合保険 (3か月¥2,450) への加入をお願いします
※応募が定員に満たない場合、開講出来ない場合があります。

説明会開催! お気軽にご参加ください。
※主な内容は、訓練内容の説明、主要な教材のご案内、質疑応答、施設の見学となります。

場所 アソワ・ヒューマニティーセンター
日程 6/23(火)・7/3(金)・7/10(金)・7/15(水)
時間 13:00~16:00 (個別対応も致します)
※お電話にて予約をお願いします。
TEL: 092(733)8293 滝野・浅野
受付時間 平日 9:30~18:30

備考についてのお問い合わせ先
ハローワーク 福岡市中央区天神2丁目8番41号 福岡朝日会館7F
TEL: 093(622)5738

訓練内容についてのお問い合わせ先
株式会社アソワ・ヒューマニティーセンター
事業開発部 滝野・浅野
TEL: 092(733)8293

お申し込みは、住所を管轄する各ハローワークの訓練担当窓口へ
(ハローワークへのご相談は、7月16日(木)までにお願います)

建設基礎人材育成科 カリキュラム（１回目）

受託希望機関名 株式会社アソウ・ヒューマニーセンター

訓練科名		建設基礎人材育成科		就職先の 職 務	建設、土木工事関連分野
訓練期間		平成 27 年 2 月 3 日～平成 27 年 7 月 31 （6 か月）			
訓練目標		①建設、土木工事分野の現場で円滑に働くために必要な基礎知識や安全衛生について心得を持つ ②施工図を読むための知識や施工図の寸法の読み取り方、柱や梁、壁等の施工にあたっての考え方を ③型枠施工図の墨出しや断面図に関する知識を持ち、型枠現場での原寸墨出しや原寸加工の技能を習得する ④型枠、鉄筋の現場施工（型枠や鉄筋の組立など）に関する知識及び技能を習得する ⑤日常的業務に必要なコミュニケーションスキル等を習得する ⑥建設現場で必要とされる各種資格の取得をめざし、建設、土木工事関連の即戦力を育成する			
仕上がり像		建設業務全体の基礎的知識能力を有し、建設現場で働くためのリテラシー、スキル、資格等を身に付け、建設基礎人材として型枠、鉄筋に関する知識と技能を有する人材。なお、建設・土木業界で即戦力として従事できる人材。			
訓練内容	科 目		科 目 の 内 容		訓練時間
	学 科	オリエンテーション	入所式、終了式、訓練施設概要		6
		就職支援、就職基礎能力	業界理解、自己理解、ビジネスマナー、応募書類作成、面接指導、キャリアカウンセリング		6 6
		社会人基礎能力	社会人基礎力養成、コミュニケーション能力、グループワーク		4 2
		安全衛生概論	5 S 活動、安全に関する基礎知識		1 8
		K Y T	危険予知訓練		1 2
		労働法概論	労働基準法、労働安全衛生法		2 4
		メンタルヘルス教育	労働者の心の健康の保持増進		6
		建設現場で必要とされる資格及び知識の習得	フォークリフト運転技能講習、高所作業車運転技能教育、玉掛け技能講習、ガス溶接技能講習、研削砥石特別教育、酸素欠乏作業特別教育、低圧電気取扱い特別教育、小型移動式クレーン運転技能講習、アーク溶接特別教育、丸のこ取扱い安全衛生教育、粉じん作業特別教育、リスクアセスメント教育、クレーン運転特別教育		1 4 4
		建設用語の基礎知識	建設業界の専門用語の理解		6
		施工図や型枠施工図に関する知識	施工図の基礎知識、記号の理解、通り芯の考え方、寸法の読み方、柱・梁・壁等の考え方、墨出し等		3 6
		型枠現場施工、鉄筋現場施工等に関する知識	鉄筋の種類及び計上、スペーサーの種類、各部配筋の方法、鉄筋施工（図面）、型枠支保工の基礎、圧接について、鉄筋施工（断面）、型枠施工（図面）、型枠施工（断面）		7 8

実 技	建設現場で必要とされる資格及び技能の習得	フォークリフト運転技能講習、高所作業車運転技能教育、玉掛け技能講習、ガス溶接技能講習、研削砥石特別教育、酸素欠乏作業特別教育、低圧電気取扱い特別教育、小型移動式クレーン運転技能講習、アーク溶接特別教育、丸のこ取扱い安全衛生教育、粉じん作業特別教育、リスクアセスメント教育、クレーン運転特別教育	102
	型枠現場施工、鉄筋現場施工等に関する技能習得	結束の基本実技、鉄筋組立（ベース）、鉄筋組立（梁）、墨出し実践、型枠材料加工、型枠組立、型枠組立（締固め）、型枠組立（ベース）、鉄筋組立（全体）、型枠組立（全体）	180
	職場見学	実際の施工現場を見学	6
	職業人講話	県内の建設業代表者による講話、求める人物像等	6
	訓練時間総合計 732時間（学科438時間、実技294時間）		
主要な機器設備 （参 考）		・ 実技に関しては、別会場にて実施します。 ・ また、実技で必要となる資材、ヘルメットは、別途、準備致します。 ・ 安全靴等の安全用具は訓練生各自でご用意頂くことがあります。	

建設基礎人材育成科 カリキュラム（２回目、再立上げ）

受託希望機関名 株式会社アソウ・ヒューマニーセンター

訓練科名		建設基礎人材育成科		就職先の 職 務	建設、土木工事関連分野
訓練期間		平成 27 年 8 月 4 日～平成 27 年 10 月 30 日 (3 か月)			
訓練目標		①建設、土木工事分野の現場で円滑に働くために必要な基礎知識や安全衛生について心得を持つ ②型枠、鉄筋の現場施工（型枠や鉄筋の組立など）に関する基礎知識を習得する ③日常的業務に必要なコミュニケーションスキル等を習得する ④建設現場で必要とされる各種資格の取得をめざし、建設、土木工事関連の人材を育成する			
仕上がり像		建設業務全体の基礎的知識能力を有し、建設現場で働くためのリテラシー、スキル、資格等を身に付け、建設基礎人材として型枠、鉄筋に関する知識を有する人材。なお、建設・土木業界で活躍できる人材として従事できる人材。			
訓練 の 内 容	科 目		科 目 の 内 容		訓練時間
	学 科	オリエンテーション	入所式、終了式、訓練施設概要等		3 0
		就職支援、就職基礎能力	業界理解、自己理解、ビジネスマナー、応募書類作成、面接指導、キャリアコンサルティング		
		社会人基礎能力	社会人基礎力養成、コミュニケーション能力、グループワーク		2 4
		労働安全衛生概論	労働災害の現状、安全教育の必要性		1 2
		K Y T （危険予知訓練）	危険予知訓練		6
		リスクアセスメント教育	O S H M S、R Aの基本		6
		玉掛け技能講習	クレーンの知識、力学、法令、玉掛け方法		1 8
		小型移動式クレーン運転技能講習	移動式クレーンの知識、法令、力学、原動機電気 の知識		1 8
		高所作業車運転技能講習	高所作業車の構造、取扱の知識、原動機、力学、 法令		1 8
		フォークリフト運転技能講習	走行装置の知識、法令、荷役装置、力学の知識		1 8
		ガス溶接技能講習	可燃性ガス酸素の知識、法令、設備の構造、取扱 の知識		1 2
		アーク溶接技能講習	アーク溶接基礎知識、アーク溶接作業の方法の知 識、法令		1 8
		研削砥石特別教育	研削砥石取り付け用具の知識、試運転方法の知識、 法令		6
		丸のこ等の取扱安全衛生教育	丸のこ等に関する知識、作業に関する知識		3
		建設業基礎知識	鉄筋、型枠工の基礎知識		3 0
職場見学	建設現場の見学		1 8		
職業人講話	建設業界従事者による講話		3		

実 技	玉掛け技能講習	質量目測、用具選定、合図、玉掛け、実践訓練	1 2
	小型移動式クレーン運転技能講習	合図、小型移動式クレーンの運転操作、実践訓練	1 2
	高所作業車運転技能講習	高所作業車の作業のための装置の操作、実践訓練	1 2
	フォークリフト運転技能講習	走行の操作、荷役の操作、実践訓練	3 0
	ガス溶接技能講習	装置の取り付け、設備の取扱い、ガス溶接溶断作業、実践訓練	1 2
	アーク溶接特別教育	溶接機の取扱い、アーク溶接作業、実践訓練	1 2
	研削砥石特別教育	研削砥石の取り付けと試運転	3
	丸のこ等の取扱安全衛生教育	丸のこ等の正しい取扱い方法	3
	訓練時間総合計 336時間(学科240時間、実技 96時間)		
主要な機器設備 (参 考)		・実技に関しては、別会場にて実施します。 ・また、実技で必要となる資材、ヘルメットは、別途、準備致します。 ・安全靴等の安全用具は訓練生各自でご用意頂くことがあります。	

□ 訓練実施

(イ) 訓練内容

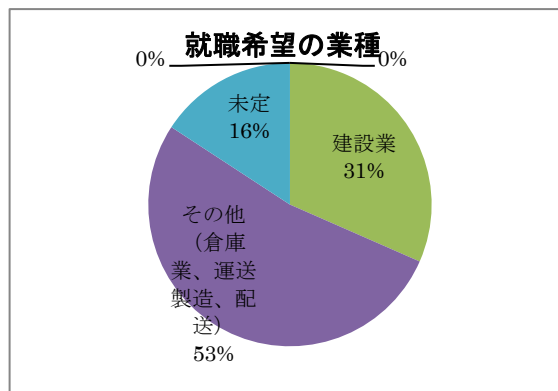
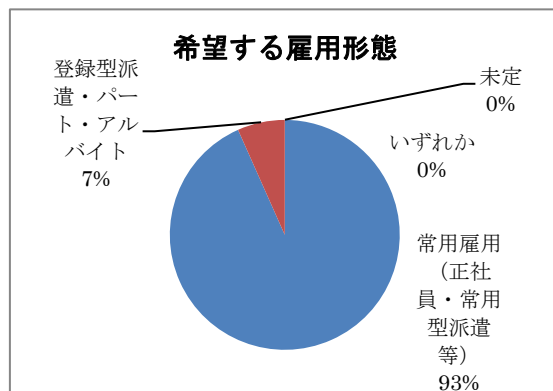
小型移動式クレーン運転技能講習、アーク溶接特別教育、丸のこ取扱い安全教育、玉掛け技能講習、ガス溶接技能講習、研削砥石特別教育などの資格と建設基礎知識に関する講義、建設現場見学などの訓練を実施した。

(ロ) アンケート結果

訓練期間中に訓練生に対してアンケート調査を実施した。
主な内容は次のとおりである。

○就職希望（入所2ヵ月後）について

入所2ヵ月後に行ったアンケートの結果、93%が常用雇用（正社員）・常用型派遣を希望し、就職希望先は、資格が活かせる建設・土木技術者、建設業、倉庫業、運送業などであるが、建設業関連への希望は31%にとどまった。



○科目の内容、訓練時間の長さ、習得度について

科目の内容については、職場見学の項目で71.5%の訓練生があまり良くない、良くないとしているほかは、概ね良好であった。

職場見学の評価が低い背景には、建設現場見学にとどまり、作業体験や生の声を聞くことが出来なかったことが理由に挙げられる。

訓練時間については、やや長い、長いと感じている訓練生の割合が多いようであるが、これは資格取得のため法定で内容と時間が定められている関係で、資格によっては内容の重複があることによるものと考えられる。

習得度について、型枠・鉄筋の現場施工に関する習得度が他の項目に比べて低い傾向がある。今回の検証訓練では、型枠・鉄筋の現場施工に関する実技科目が見学のみとなっており、訓練生が自ら体験することがなかったことが一因と思われる。

ハ 就職の状況（就職率 60.0%）

修了者数	（うち女性）	（うち就職）	中退者数	（うち女性）	（うち就職）
14人	0人	8人	1人	0人	1人

中途退所者は1人であり、常用雇用での就職による中途退所であった。

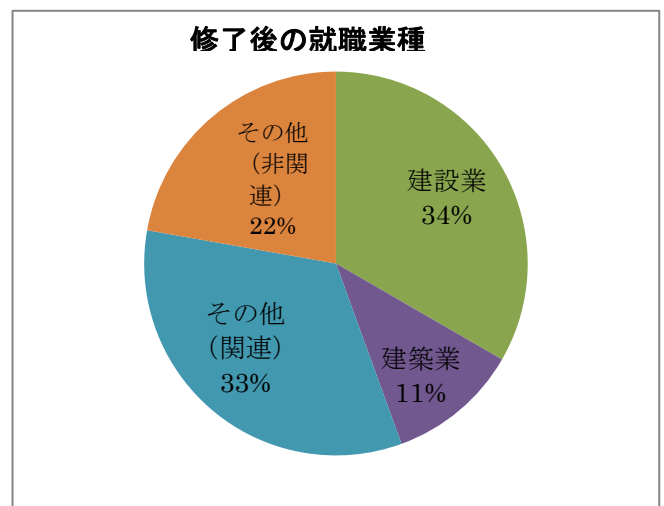
修了者は14名で訓練修了時の就職率は6.6%であったが、引き続き就職支援を継続し、修了3か月後の就職率は60.0%となった。建設、建築業への就職者が全体の45%、倉庫・配送業が33%を占めており、資格を活かした就職を行っている。

二 検証訓練結果の分析

（イ）訓練のねらいと検証結果

建設基礎人材育成科の検証訓練は、建設業界の人材不足の課題に対応するため、資格取得を売りにした訓練を立ち上げ、訓練生を確保するとともに建設業関連職種への就職可能性を高めるというものである。

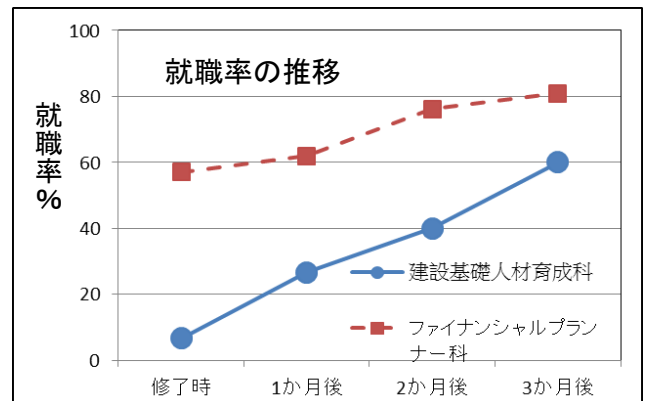
しかし、関連就職率は77.8%と高い数値を達成できたものの（建設・建築業関連へ就業した訓練生は45%）で就職率は60.0%あり、就職率が想定外に低い結果となった。



（ロ）検証結果の分析

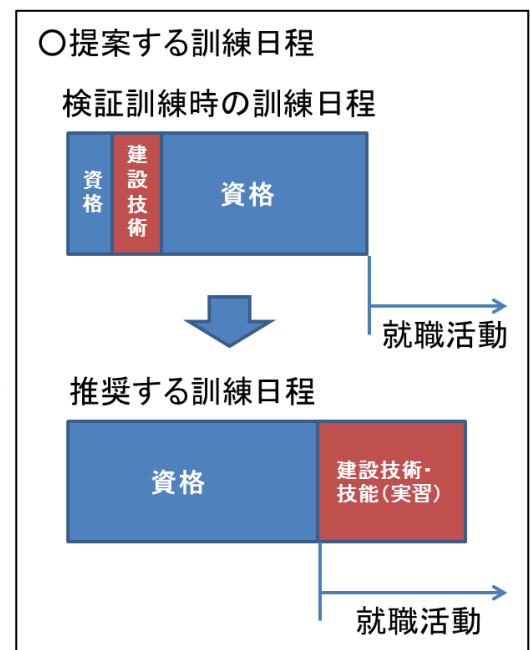
就職率が向上しなかった要因として、以下の理由が考えられる。

- ・各種資格の取得には法定時間を満たす必要がある。結果として訓練生は資格の取得のために、訓練を休むことができず、訓練期間中の就職活動が行いにくい環境にある。
（就職活動の開始が遅れると就職率が上がりにくい傾向にある。
（右図参照。）
- ・訓練生は、資格を取り、就職活動は訓練修了後から行いたいという意識になりやすく、就職活動に対する指導を行っても訓練生に伝わりにくい。



(ハ) 改善の提案

- ①資格の取得は訓練の売りであり、訓練生の応募率向上に必要である。
そこで、訓練期間を1ヵ月延長し、試行2で削除した鉄筋・型枠関連の実習を行うことを提案する。
- ②新提案では、資格2. 5ヵ月、建設技術・技能1. 5ヵ月の訓練を行うこととなるが、資格を最初の2. 5ヵ月で取得し、建設技術・技能の訓練をその後に行うことを強く推奨する。これによって、訓練の後半部分で就職活動を行いやすくし、就職率の向上につなげようとするものである



5 本事業の成果物について

本事業の成果物として、コンソーシアムにおいて開発した上記4の離職者向け訓練コースが離職者訓練のカリキュラムとして効果的な内容となっているか、委託訓練の実施を通じて検証し、その結果を踏まえてモデルカリキュラムとして取りまとめた。

(1) ファイナンシャルプランナー科

ファイナンシャルプランナー科の検証訓練の結果に基づき、資産運用分野への求職、求人状況を踏まえて当該科のカリキュラムについての提案を23ページに示す。

なお、検証訓練カリキュラムからの変更点は以下のとおり。

イ. カリキュラムに事務職関連の職務の要素を強化する

「資産運用」、「金融・税金知識」、「簿記会計知識」の知識に、新たに「オフィス事務実務」、「コンピュータ会計」に関わる、給与計算や帳簿、会計システムなどの実務を加えて学習することで、事務実務スキル能力の高い人材を育成する。さらに、ビジネスシーンで必要となるインターネット、メールのパソコン操作を習得するとともに、個人情報や著作権などの情報倫理を学び、情報漏洩等に対し厳格な行動が出来る人材育成をめざす。

なお、上記の学科を追加するため、検証カリキュラムの資産運用（FP分野、二種外務員分野）、金融・税金知識、及び社会人基礎能力に係る時間数を減らし対応している。

訓練実施に当たっての留意事項は以下のとおりである。

（イ）学科

- ①FP分野において、ライフプランニングと資金計画はFPの根幹となるところ、かつ分量も多い。FP 3級対策後、2級対策。年金などは制度も難しい。ここで苦手意識を持たないように、また、できるだけ自分のこととして捉えることができるよう、身近な例などを挙げながら進める必要がある。
- ②二種外務員分野においては、債券関係、株式関係は金融（FP）と重なる部分があり、時間配分を調整する。計算式がとても多いので、覚えるまで演習を繰り返すことで効果的となる。

（ロ）実技

- ①日常業務的に必要なコミュニケーションスキルやプレゼンテーションスキルが必要とされていることから、情報リテラシーⅢ（プレゼンテーション）科目の実施時期はカリキュラムのできるだけ早い時期に設定する必要がある。これによって実技におけるグループ演習で、受講者同士が教えあえる雰囲気を作ることができ、コミュニケーション能力の向上を図ることができる。
- ②職業意識として、カウンセリングマインドを基本とした傾聴の技法について、ロールプレイングを行いながら習得してもらう。自分のコミュニケーション能力について客観的に把握し職業人としてのコミュニケーション能力を高める。
- ③ビジネスパソコン、コンピュータ会計については、オフィス事務実務の内容と関連性があるため、日別計画において効率的な学習を行うことによって訓練効果があがる。

（ハ）就職支援

ジョブ・カードを活用したキャリア・コンサルティングは訓練期間中に3回以上行うことが望ましく、具体的には訓練開始時に受講者の経歴の棚卸や就職への意識付けを行い、訓練後半の就職活動を行う時期に2回以上実施することでより効果的に行うことができる。

(二) 関連資格等

任意受験によって取得可能な資格は、以下を想定している。

- ・ 3級ファイナンシャルプランナー技能士
- ・ 2級ファイナンシャルプランナー技能士
- ・ 二種外務員 ・ 日商簿記3級 ・ 日商PC検定
- ・ 文書作成2級 ・ データ活用2級 ・ プレゼン資料作成2級

訓練計画を立てる際には、上記資格の試験日程を考慮して、カリキュラムを設定することにより、受講者のモチベーションを高めるとともに、訓練効果を高めることが期待できる。

ロ. 訓練科広報に当たっての注意点

広報時に資産運用分野の幅広い資格が取得できることをよりアピールし、外務員をはじめとした資産運用分野の職務に就きたい方々への周知をはかる。

また、科名のサブタイトル、もしくは資産運用分野に広く対応した訓練を行う科であるとイメージできるような訓練科名への検討を行う。

(2) 建設基礎人材育成科

建設基礎人材育成科の検証訓練の結果に基づき、当該科のカリキュラムについての提案を40ページ～41ページに示す。

検証訓練の変更点は以下のとおり。

イ. カリキュラムの建設関連（型枠・鉄筋）の職務の要素を強化する

訓練期間を1ヵ月延長し4ヵ月コースとし、延長した時間で鉄筋・型枠関連の実習を行う。

ロ. 訓練運営について

資格2. 5ヵ月、建設技術・技能1. 5ヵ月の訓練を行うこととなるが、資格を最初の2. 5ヵ月で取得し、建設技術、技能の訓練をその後に行うことを強く推奨する。

なお、コースごとに①委託訓練モデルカリキュラム、②科目の内容・細目シート、③使用教材リストに整理し、別添のとおり資料集として取りまとめたので、ご活用ください。

I 資産運用分野

「ファイナンシャルプランナー科」関連資料一覧

資料 1－1 委託訓練モデルカリキュラム

資料 1－2 科目の内容・細目シート

資料 1－3 使用教材リスト

II 建設業分野

「建設基礎人材育成科」関連資料一覧

資料 2－1 委託訓練モデルカリキュラム

資料 2－2 科目の内容・細目シート

資料 2－3 使用教材リスト

委託訓練モデルカリキュラム

訓練科名			ファイナンシャルプランナー・ 外務員科		就職先の職務	・金融業界（証券事務、銀行商品案内・ 金融商品のアドバイス業務（コール センター）、金融事務） ・保険業界（保険セールス、保険窓口） ・各業界事務（一般事務、各種事務）	
訓練期間			平成 年 月 日～平成 年 月 日 （6か月）				
訓練目標			①日常職務に必要なビジネス文書作成、表計算（集計表、グラフ作成等）、プレゼンテーション用スライド等が作成できる ②資産運用分野の業務に活かせる2級ファイナンシャルプランナー技能士程度や二種外務員程度の知識、技能を習得する ③資産運用分野の業務に必要な日商簿記3級程度の簿記や財務会計の知識、技能を習得する ④日常的業務に必要なコミュニケーションスキルやプレゼンテーションスキル等を習得する ⑤相続等、資産運用に必要な税金の基礎知識を習得する				
仕上がり像			資産運用関係職種全体の基礎的職務能力を有し、資産運用職としてのリテラシーを身につけ、効果的な資産運用計画を立案・提案できる人材				
訓練の内容	科 目		科 目 の 内 容			訓練時間	
	学 科	入所式等	入所式、オリエンテーション、修了式			186	
		資産運用（FP分野）	ライフプランニングと資金計画、リスク管理、相続・事業承継、不動産、資産設計提案業務、個人資産相談業務、中小事業主資産相談業務、生保顧客資産相談業務、損保顧客資産相談業務、検定対策				
		資産運用（二種外務員分野）	金商法関係、債券関係、株式関係、投資信託関係			60	
		金融・税金知識	金融資産運用、タックスプランニング、各種税金関係			72	
		簿記会計知識	簿記の全体像、商品売買、現金・預金、手形取引、その他の債権・債務、有価証券、有形固定資産その他、主要簿と補助簿、決算整理、精算表と帳簿の締切り、検定対策			108	
		就職基礎能力	ビジネスマナー、就職活動、情報収集、応募書類の作成、対人関係構築			36	
		オフィス事務実務	給与計算、帳簿、税金の基礎知識、社会保険の基礎知識			24	
	実 技	社会人基礎能力	職業人の心構え、ロールプレイによる演習、職業意識（協働力・主体性・実行力・想像力）、職場内コミュニケーション			30	
		ビジネスパソコン	インターネット、メールの活用、情報倫理			12	
		情報リテラシーⅠ（文書処理）	文書の基本操作、文字の入力と保存、文書の編集、文書の印刷、書式設定、グラフィックス・図形の利用、表の作成、長文作成、アウトライン機能、差込印刷、Wordの便利な文書作成機能、その他アプリケーションの利用、練習問題、パソコンの使用上の注意（VDT症候群の予防等）			36	
		情報リテラシーⅡ（表計算）	基本操作、表作成の基本、表の編集、数式と関数、グラフの作成、ブックの利用、データベース基礎機能、ピボットテーブル、グラフの応用、Excelの便利な機能、練習問題			48	
		情報リテラシーⅢ（プレゼンテーション）	スライドの作成、図・グラフ・表等の挿入・編集、プレゼンテーション準備・発表			30	
		コンピュータ会計	会計ソフトの操作、給与に関連する業務と会計処理、税金に関連する業務と会計処理			24	
訓練時間総合計			学科	486	実技	180	666
主要な機器設備 （参考）			ホワイトボード、TVコンバーター、TVモニター、PC				

科目の内容・細目シート

科目	資産運用（F P分野）	時間	186	
到達水準	ライフプランニングと資金計画について知っている			
	リスク管理を知っている			
	相続・事業承継について知っている			
	不動産取引に係る知識を知っている			
科目の内容	内容の細目		訓 練 時 間	
		学科	実技	
(1) ライフプランニングと資金計画	イ. ファイナンシャル・プランニングと倫理 ロ. ファイナンシャル・プランニングと関連法規 ハ. ライフプランニングの考え方・手法 二. 社会保険 ホ. 公的年金 ヘ. 企業年金・個人年金等 ト. 年金と税金 チ. ライフプラン策定上の資金計画 リ. 中小法人の資金計画 ヌ. ローンとカード ル. ライフプランニングと資金計画の最新の動向		36	
(2) リスク管理	イ. リスクマネジメント ロ. 保険制度全般 ハ. 生命保険 二. 損害保険 ホ. 第三分野の保険 ヘ. リスク管理と保険 ト. リスク管理の最新の動向		30	
(3) 相続・事業承継	イ. 贈与と法律 ロ. 贈与と税金 ハ. 相続と法律 二. 相続と税金 ホ. 相続財産の評価（不動産以外） ヘ. 相続財産の評価（不動産） ト. 不動産の相続対策 チ. 相続と保険の活用 リ. 事業承継対策 ヌ. 事業と経営 ル. 相続・事業承継の最新の動向		24	
(4) 不動産	イ. 不動産の見方 ロ. 不動産の取引 ハ. 不動産に関する法令上の規制 二. 不動産の取得・保有に係る税金 ホ. 不動産の譲渡に係る税金 ヘ. 不動産の賃貸 ト. 不動産の有効活用 チ. 不動産の証券化 リ. 不動産の最新の動向		24	
使用する機械 器具等				
備 考	【引用元】特定非営利活動法人(NPO法人)日本ファイナンシャル・プランナーズ協会 http://www.jafp.or.jp/ 学科試験・実技試験の細目			

科目の内容・細目シート

科目	資産運用（F P分野）	時間	186	
到達水準	資産設計提案業務に係る知識を知っている			
	個人資産相談業務に係る知識を知っている			
	中小事業主資産相談業務に係る知識を知っている			
	生保顧客資産相談業務に係る知識を知っている			
	損保顧客資産相談業務に係る知識を知っている			
科目の内容	内容の細目	訓 練 時 間		
		学科	実技	
（５）資産設計提案業務	イ． 関連業法との関係及び職業上の倫理を踏まえたファイナンシャル・プランニング ロ． 個人顧客のニーズ及び問題点の把握 ハ． 問題の解決策の検討・分析 ニ． 顧客の立場に立った相談	6		
（６）個人資産相談業務	イ． 関連業法との関係及び職業上の倫理を踏まえファイナンシャル・プランニング ロ． 個人顧客のニーズ及び問題点の把握 ハ． 問題の解決策の検討・分析 ニ． 顧客の立場に立った相談	6		
（７）中小事業主資産相談業務	イ． 関連業法との関係及び職業上の倫理を踏まえファイナンシャル・プランニング ロ． 中小事業主のニーズ及び問題点の把握 ハ． 問題の解決策の検討・分析 ニ． 顧客の立場に立った相談	6		
（８）生保顧客資産相談業務	イ． 関連業法との関係及び職業上の倫理を踏まえファイナンシャル・プランニング ロ． 生保顧客のニーズ及び問題点の把握 ハ． 問題の解決策の検討・分析 ニ． 顧客の立場に立った相談	6		
（９）損保顧客資産相談業務	イ． 関連業法との関係及び職業上の倫理を踏まえファイナンシャル・プランニング ロ． 損保顧客のニーズ及び問題点の把握 ハ． 問題の解決策の検討・分析 ニ． 顧客の立場に立った相談	6		
（１０）検定対策	イ． 検定対策	42		
		合計	186	
使用する機械 器具等				
備 考	【引用元】特定非営利活動法人(NPO法人)日本ファイナンシャル・プランナーズ協会 http://www.jafp.or.jp/ 学科試験・実技試験の細目			

科目の内容・細目シート

科目	資産運用（二種外務員分野）	時間	60		
到達水準	金商法関係を知っている				
	債券関係を知っている				
	株式関係を知っている				
	投資信託関係を知っている				
科目の内容	内容の細目			訓 練 時 間	
			学科	実技	
（１）金商法関係	イ．金融商品取引法 ロ．協会定款・諸規則 ハ．セールス業務			12	
（２）債券関係	イ．経済・金融・財政の常識 ロ．証券市場の基礎知識 ハ．債権業務 二．ＣＰ等短期有価証券業務、その他の金融商品取引業務			18	
（３）株式関係	イ．株式会社法概論 ロ．取引所定款・諸規則 ハ．株式業務 二．財務諸表と企業分析			21	
（４）投資信託関係	イ．投資信託及び投資法人に関する法律 ロ．投資信託及び投資法人に関する業務 ハ．付随業務 二．証券税制			9	

科目の内容・細目シート

科目	金融・税金知識	時間	72		
到達水準	金融資産運用について知っている				
	タックスプランニングを知っている				
	各種税金関係を知っている				
科目の内容	内容の細目			訓 練 時 間	
			学科	実技	
(1) 金融資産運用	イ. マーケット環境の理解 ロ. 預貯金・金融類似商品等 ハ. 投資信託 ニ. 債券投資 ホ. 株式投資 ヘ. 外貨建商品 ト. 保険商品保 チ. 金融派生商品 リ. ポートフォリオ運用 ヌ. 金融商品と税金 ル. セーフティネット ヲ. 関連法規 ワ. 金融資産運用の最新の動向		24		
(2) タックスプランニング	イ. わが国の税制 ロ. 預貯金・金融類似商品等 ハ. 投資信託 ニ. 債券投資 ホ. 株式投資 ヘ. 外貨建商品 ト. 保険商品保 チ. 金融派生商品 リ. ポートフォリオ運用 ヌ. 金融商品と税金 ル. セーフティネット ヲ. 関連法規 ワ. 金融資産運用の最新の動向		30		
(3) 各種税金関係	イ. 年金と税金 ロ. 保険と税金 ハ. 金融商品と税金 ニ. 不動産に係る税金 ホ. 贈与と税金 ヘ. 相続と税金		18		
			合計	72	
使用する機械 器具等					
備 考	【引用元】特定非営利活動法人(NPO法人)日本ファイナンシャル・プランナーズ協会 http://www.jafp.or.jp/				

科目の内容・細目シート

科目	簿記会計知識	時間	108	
到達水準	簿記の全体像を知っている			
	商品売買について知っている			
	現金・預金について知っている			
	手形取引を知っている			
	その他の債権・債務を知っている			
	有価証券・有形固定資産を知っている			
	主要簿と補助簿を知っている			
科目の内容	内容の細目	訓 練 時 間		
		学科	実技	
(１) 簿記の全体像	イ. 簿記とは ロ. 貸借対照表とは ハ. 損益計算書とは 二. 取引の記録	3		
(２) 商品売買	イ. 商品売買とは ロ. 掛とは ハ. 値引・返品とは 二. 諸掛とは	9		
(３) 現金・預金	イ. 貯金とは ロ. 現金過不足とは ハ. 当座貯金とは 二. 当座借越とは ホ. 小口現金とは	12		
(４) 手形取引	イ. 手形とは ロ. 約束手形 ハ. 為替手形 二. 自己受為替手形・自己宛為替手形 ホ. 手形の裏書 ヘ. 手形の割引	12		
(５) その他の債権・債務	イ. 貸付金・借入金 ロ. 未払金・未収金 ハ. 前払金・前受金 二. 立替金 ホ. 預り金 ヘ. 仮払金・仮受金 ト. 商品券・他店商品券	12		
(６) 有価証券・ 有形固定資産その他	イ. 有価証券 ロ. 有形固定資産 ハ. 資本金 二. 記入漏れ・訂正仕訳 ホ. 伝票	6		
(７) 主要簿と補助簿	イ. 主要簿 ロ. 補助簿	6		
(８) 検定対策	イ. 検定対策	48		
		合計	108	
使用する機械 器具等				
備 考	【引用元】日商簿記3級光速マスターテキスト （出版）株式会社東京リーガルマインド			

科目の内容・細目シート

科目	就職基礎能力	時間	36	
到達水準	ビジネスマナーの基礎を知っている			
	就職活動を取り巻く環境や企業が求める能力や経験を知っている			
	求人情報の入手方法を知っている			
	効果的な応募書類の作成方法を知っている			
	対人関係構築の基本を知っている			
科目の内容	内容の細目	訓練時間		
		学科	実技	
(1) ビジネスマナー	イ. ビジネスマナーの必要性 ロ. ビジネスマナーの基礎	6		
(2) 就職活動	イ. キャリアという言葉の表すこと ロ. 求職活動を取り巻く環境 ハ. 企業が求める能力と経験	12		
(3) 情報収集	イ. 求人情報の入手方法	6		
(4) 応募書類の作成	イ. 履歴書作成の基本 ロ. 職務経歴書作成の注意点 ハ. 説得力のある表現の事例 ニ. 応募書類の作成 ホ. キャリアの棚卸し	6		
(5) 対人関係構築	イ. 話し上手は聞き上手 ロ. 「聞く」心構え	6		
		合計	36	
使用する機械 器具等				
備 考	【引用元】 キャリア支援テキストⅠ、Ⅱ （出版）株式会社東京リーガルマインド			

科目の内容・細目シート

科目	オフィス事務実務	時間	24	
到達水準	給与計算業務に必要な知識を知っている			
	帳簿の種類を知っている			
	税金の種類を知っている			
	会社と従業員の関係（労働基準法）を知っている			
	社会保険の仕組みを知っている			
科目の内容	内容の細目	訓 練 時 間		
		学科	実技	
(1) 給与計算	イ. 給与計算業務に必要な基礎知識 ロ. 給与計算実務に必要な法的知識	12		
(2) 帳簿・税金の基礎知識	イ. 各種帳簿の基礎知識 ロ. 税金の基礎知識	6		
(3) 社会保険の基礎知識	イ. 会社と従業員の関係 ロ. 社会保険の概要	6		

科目の内容・細目シート

科目	社会人基礎能力	時間	30
到達水準	職業人の心構えがある		
	面接での自己PRや立ち振る舞いができる		
	職業意識を高めることができる		
	職場内コミュニケーションができる		
科目の内容	内容の細目	訓練時間	
		学科	実技
(1) 職業人の心構え	イ. 求職活動を始めるにあたっての心構え ロ. 自己理解の基本的な流れ ハ. キャリアの棚卸し 二. VPI職業興味テスト ホ. キャリアアンカー（価値観）の明確化		9
(2) ロールプレイによる演習性・実行力	イ. ビジネスマナー五原則の習得 ハ. 自己PR 二. 模擬面接		3
(3) 職業意識 (協働力・主体性・実行力・想像力)	イ. コミュニケーションの基本 ロ. 傾聴の技法 ハ. アサーショントレーニング 二. インプロゲーム ホ. ストレス対処法		12
(4) 職場内コミュニケーション	イ. 報告・連絡・相談 ロ. チームビルディング ハ. 自己管理		6
	合計		30
使用する機械器具等			
備考	【引用元】 キャリア支援テキストⅠ、Ⅱ （出版）株式会社東京リーガルマインド		

科目の内容・細目シート

科目	ビジネスパソコン	時間	12
到達水準	ブラウザを起動することができる		
	利用上の注意点を理解した上で、インターネットを利用することができる		
	電子メールソフトを起動することができる		
	メールの送受信ができる		
	情報倫理を理解した上で、インターネットからの情報を取得することができる		
科目の内容	内容の細目	訓 練 時 間	
		学科	実技
(1) インターネット・メールの活用	イ. インターネットの利用 ロ. ブラウザの起動 ハ. インターネットを利用する上での注意点 ト. 電子メールの概要		9
(2) 情報倫理	イ. 現代社会における情報倫理 (メディアリテラシー、表現の自由、プライバシーの問題等)		3
	合計		12
使用する機械器具等	パソコン: OS名 (Windows 7) 使用ソフト名 (Microsoft Office 2007)		
備 考	【引用元】Windows7 (引用)株式会社東京リーガルマインド		

科目の内容・細目シート

科目	情報リテラシーⅠ（文書処理）	時間	36		
到達水準	文書の基本操作ができる				
	文字の入力と保存ができる				
	文書の編集ができる				
	文書の印刷ができる				
	書式設定ができる				
	グラフィックス・図形の利用ができる				
	表の作成ができる				
科目の内容	内容の細目			訓 練 時 間	
			学科	実技	
（１）文書の基本操作	イ． W i n d o w s の起動 ロ． W i n d o w s の画面操作 ハ． マウスの操作 ニ． スタートメニュー ホ． W i n d o w s の終了				2
（２）文字の入力と保存	イ． W o r d の起動 ロ． 日本語の入力システム ハ． 文字入力 ニ． 文字の変換 ホ． 文章の変換 ヘ． ファイルの保存				2
（３）文書の編集	イ． 文字書式 ロ． 段落書式 ハ． ヘッダーとフッター				3
（４）文書の印刷	イ． 印刷の手順 ロ． 印刷イメージの確認 ハ． ページ設定 ニ． 印刷				1
（５）書式設定	イ． セル内の文字の配置 ロ． セル内の均等割り付け ハ． 罫線の種類・太さ・色の変更 ニ． セルの塗りつぶし ホ． 表全体の配置				4
（６）グラフィックス・ 図形の利用	イ． ワードアートの挿入 ロ． クリップアートの挿入 ハ． 図の挿入 ニ． 図形の作成 ホ． ページ罫線の設定 ト． テーマの変更				2
（７）表の作成	イ． 表の作成 ロ． 表の範囲選択 ハ． 表のレイアウトの変更 ニ． 表の書式設定 ホ． 表全体の配置				3
	次ページへつづく				
使用する機械 器具等	パソコン：ＯＳ名（ Windows 7 ）使用ソフト名（ Microsoft Office 2007 ）				
備 考	【引用元】Word2007Windows7、Word 2007 Essentialテキスト&問題集、Word 2007 Advanceテキスト&問題集 （出版）株式会社東京リーガルマインド				

科目の内容・細目シート

科目	情報リテラシーⅠ（文書処理）	時間	36	
到達水準	長文作成ができる			
	アウトライン機能を使うことができる			
	差込印刷ができる			
	W o r d の便利な文書作成機能を使うことができる			
	アプリケーションを利用できる			
	練習問題（企業実務に必要な文書作成ソフト、表計算ソフトの操作）ができる			
	練習問題（状況に応じた適切なビジネス文書作成）ができる			
	パソコンの使用上の注意事項を知っている			
科目の内容	内容の細目	訓 練 時 間		
		学科	実技	
（８）長文作成	イ． 文書構成の変更 ロ． スタイルセットの適用 ハ． 表紙の作成 ニ． 組み込みのヘッダーとフッター ホ． 目次の作成		2	
（９）アウトライン機能	イ． アウトラインの番号の設定 ロ． アウトライン番号の更新 ハ． 改ページの挿入		2	
（１０）差込印刷	イ． 差し込み印刷とは ロ． メイン文書への差し込み印刷 ハ． ラベルへの差し込み印刷		3	
（１１）W o r d の便利な 文書作成機能	イ． 文書の校閲 ロ． E x c e l データの利用		2	
（１２）その他 アプリケーションの利用	イ． アプリケーションソフトの起動 ロ． ウィンドウの各部名称と役割 ハ． ウィンドウの最大化・復元・最小化 ニ． ウィンドウサイズの変更 ホ． ウィンドウの移動 ト． アプリケーションの終了		2	
（１３）練習問題	イ． 企業実務に必要な文書作成ソフト操作 ロ． 状況に応じた適切なビジネス文書作成		6	
（１４）パソコンの使用上の注意 （V D T 症候群の予防等）	イ． 安全衛生の必要性、職場体験における安全衛生		2	
		合計	36	
使用する機械 器具等	パソコン：ＯＳ名（ Windows 7 ）使用ソフト名（ Microsoft Office 2007 ）			
備 考	【引用元】Word2007Windows7、Word 2007 Essentialテキスト&問題集、Word 2007 Advanceテキスト&問題集 株式会社東京リーガルマインド出版 【引用元】日本商工会議所 日商PC(文書作成) http://www.kentei.ne.jp/datautilization/class2			

科目の内容・細目シート

科目	情報リテラシーⅡ（表計算）	時間	48	
到達水準	基本操作ができる			
	表作成の基本操作ができる			
	表の編集ができる			
	数式と関数を使い表を作成することができる			
	グラフの作成ができる			
	ブックの利用ができる			
	データベース基礎機能を使うことができる			
	ピボットテーブルを使いグラフを作成できる			
	E x c e l の便利な機能を使うことができる			
	練習問題（企業実務に必要な表計算ソフトの操作）ができる			
	練習問題（関数を使いデータベースからデータ、値を求める）ができる			
	練習問題（業務データを分析しビジネスの現状や課題を把握する）ができる			
科目の内容	内容の細目	訓 練 時 間		
		学科	実技	
(1) 基本操作	イ. E x c e l の概要 ロ. E x c e l の起動 ハ. E x c e l の画面構成 二. ブックを操作する ホ. E x c e l の終了		2	
(2) 表作成の基本	イ. データの入力 ロ. データの編集 ハ. ブックを保存する 二. オートフィル機能（基礎）		2	
(3) 表の編集	イ. セルの書式設定 ロ. 行・列の操作		4	
(4) 数式と関数	イ. 数式の入力 ロ. 関数の入力		6	
(5) グラフの作成	ハ. グラフの概要 二. グラフの作成 ホ. グラフの編集 ト. グラフの印刷 チ. 円グラフの作成と編集		6	
(6) ブックの利用	イ. 共有ブックの利用		3	
(7) データベース基礎機能	イ. データベース機能の概要 ロ. 並べ替え ハ. オートフィルタ		2	
(8) ピボットテーブル グラフの応用	イ. ピボットテーブルの概要 ロ. ピボットテーブルの作成 ハ. ピボットテーブルの編集 二. ピボットテーブル便利な機能 ホ. ピボットグラフの作成		6	
(9) E x c e l の便利な機能	イ. 入力の補助機能 ロ. コメント機能		2	
(10) 練習問題	イ. 企業実務に必要な表計算ソフトの操作 ロ. 関数を使いデータベースからデータ、値を求める ハ. 業務データを分析しビジネスの現状や課題を把握する		15	
	合計		48	
使用する機械 器具等	パソコン：OS名（ Windows 7 ）使用ソフト名（ Microsoft Office 2007 ）			
備 考	【引用元】 Excel 2007 Essentialテキスト&問題集、Excel 2007 Advanceテキスト&問題集 （出版）株式会社東京リーガルマインド 【引用元】 日本商工会議所 日商PC（データ活用） http://www.kentei.ne.jp/datautilization/class2			

科目の内容・細目シート

科目	情報リテラシーⅡ（プレゼンテーション）	時間	30	
到達水準	スライドの作成ができる			
	図の挿入ができる			
	グラフ・表等の挿入の挿入ができる			
	グラフや表等の編集ができる			
	プレゼンテーション準備・発表ができる			
科目の内容	内容の細目			訓練時間
			学科	実技
（１）スライドの作成	イ．プレゼンテーションの新規作成 ロ．新しいスライドの挿入 ハ．スライドの追加と箇条書きのレベルの設定 ニ．テーマの設定 ホ．プレゼンテーションの構成の変更 ト．スライドショーの実行 チ．プレゼンテーションの保存			6
（２）図	イ．クリップアートの挿入 ロ．画像ファイルの挿入 ハ．ワードアートの挿入			3
（３）グラフ・表等の挿入	イ．グラフの挿入 ロ．Excelの挿入			3
（４）編集	イ．画像のトリミング ロ．ワードアートの編集 ハ．グラフの編集 ニ．Excelの編集			6
（５）プレゼンテーション準備 発表	イ．プレゼンテーションの基本 ロ．プレゼンテーションの情報収集 ハ．プレゼンテーションの組み立て ニ．プレゼンテーション資料の作成 ホ．プレゼンテーションの準備 ト．リハーサル チ．発表			12
	合計			30
使用する機械 器具等	パソコン：ＯＳ名（ Windows 7 ）使用ソフト名（ Microsoft Office 2007 ）			
備 考	【引用元】PowerPoint 2007（出版）株式会社東京リーガルマインド			

科目の内容・細目シート

科目	コンピュータ会計	時間	24		
到達水準	会計ソフトのセットアップをすることができる				
	給与に関連する業務にかかる会計処理を行うことができる				
	税金に関連する業務にかかる会計処理を行うことができる				
科目の内容	内容の細目			訓 練 時 間	
			学科	実技	
(１) 会計ソフトの操作	イ．会計ソフトのセットアップ ロ．会計データの入力操作と帳簿の体系				6
(２) 給与に関連する業務と 会計処理	イ．給与に関連する業務と会計処理 ロ．企業の業務システムと会計処理 ハ．会計処理実践				9
(３) 税金に関連する業務と 会計処理	イ．企業が関係する税金とは ロ．法人税の仕組み ハ．消費税の仕組み ニ．会計処理実践				9

使用教材リスト

訓練科名：ファイナンシャルプランナー科

教材名	出版社名	教材使用科目（分野）
日商PC検定試験 文書作成2級 公式テキスト	FOM出版	情報リテラシーⅠ（文書処理）
日商PC検定試験 文書作成2級 完全マスター合格のコツがわかる問題集	FOM出版	情報リテラシーⅠ（文書処理）
日商PC検定試験 データ活用2級 完全マスター合格のコツがわかる問題集	FOM出版	情報リテラシーⅡ（表計算）
日商PC検定試験 プレゼン資料作成2級 公式テキスト&問題集	FOM出版	情報リテラシーⅢ（プレゼンテーション）
日商簿記3級光速マスター テキスト	東京リーガルマインド	簿記会計知識
日商簿記3級光速マスター 問題集	東京リーガルマインド	簿記会計知識
日商簿記3級光速マスター 直前模試	東京リーガルマインド	簿記会計知識
スピード合格！証券外務員二種 図解テキスト&的中予想問題	O h m s h a	資産運用（二種外務員分野）
キャリア支援テキストⅠ	—	就職基礎能力・社会人基礎能力
キャリア支援テキストⅡ	—	就職基礎能力・社会人基礎能力
キャリア支援テキスト 別冊ワークブック	—	就職基礎能力・社会人基礎能力
VDT作業の労働安全衛生	—	情報リテラシーⅠ（文書処理）
パソコンに関して問題となる著作権	—	情報リテラシーⅠ（文書処理）
仕事に役立つFPの知識	—	資産運用（FP分野）金融・税金知識
3級FP楽習マスター問題集	—	資産運用（FP分野）金融・税金知識
3・2級FP楽習マスター テキスト	—	資産運用（FP分野）金融・税金知識
2級FP技能士 ライフプランニングと資金計画	—	資産運用（FP分野）金融・税金知識
2級FP技能士 リスク管理	—	資産運用（FP分野）金融・税金知識
2級FP技能士 タックスプランニング	—	資産運用（FP分野）金融・税金知識

使用教材リスト

訓練科名：ファイナンシャルプランナー科

教材名	出版社名	教材使用科目（分野）
2級FP技能士 金融資産運用	—	資産運用（FP分野）金融・税金知識
2級FP技能士 不動産	—	資産運用（FP分野）金融・税金知識
2級FP技能士 相続・事業承継	—	資産運用（FP分野）金融・税金知識
提案書アドバイザー	—	資産運用（FP分野）金融・税金知識
Word 2007 Essentialテキスト&問題集	—	情報リテラシーⅠ（文書処理）
Word 2007 Advanceテキスト&問題集	—	情報リテラシーⅠ（文書処理）
Excel 2007 Essential & 問題集	—	情報リテラシーⅡ（表計算）
Excel2007 Advanceテキスト&問題集	—	情報リテラシーⅡ（表計算）
PowerPoint2007テキスト	—	情報リテラシーⅢ（プレゼンテーション）
12年度1月3級FP本試験 過去問・解説集	—	資産運用（FP分野）金融・税金知識
12年度5月3級FP本試験 過去問・解説集	—	資産運用（FP分野）金融・税金知識
12年度9月3級FP本試験 過去問・解説集	—	資産運用（FP分野）金融・税金知識
日商簿記検定3級合格答練 問題用紙	—	簿記会計知識
日商簿記検定3級合格答練 答案用紙	—	簿記会計知識
日商簿記検定3級合格答練 解答・解説	—	簿記会計知識

※上記については、特定の出版社および書籍の宣伝や推奨をするものではありません。最終判断はご利用者自身となりますのでご注意ください。各教材の詳細情報や最新情報を取得したい場合は、出版社情報等を参考に各自でお問い合わせください。

委託訓練モデルカリキュラム

訓練科名		建設基礎人材育成科	就職先の職務	建設、土木工事関連分野
訓練期間		平成 年 月 日～平成 年 月 日 (4か月)		
訓練目標		①建設、土木工事分野の現場で円滑に働くために必要な基礎知識や安全衛生について心得を持つ ②型枠、鉄筋の現場施工（型枠や鉄筋の組立など）に関する基礎知識を習得する ③日常的業務に必要なコミュニケーションスキル等を習得する ④建設現場で必要とされる各種資格の取得をめざし、建設、土木工事関連の人材を育成する		
仕上がり像		建設業務全体の基礎的知識能力を有し、建設現場で働くためのリテラシー、スキル、資格等を身に付け、建設基礎人材として型枠、鉄筋に関する知識を有する人材。なお、建設・土木業界で活躍できる人材として従事できる人材。		
訓練の内容	科 目		科 目 の 内 容	訓練時間
	学 科	オリエンテーション	入所式、修了式、訓練施設概要等	36 12 12 6 6 18 18 18 18 9 12 6 3 12 12 48 9 3
		就職支援、就職基礎能力	業界理解、自己理解、ビジネスマナー、応募書類作成、面接指導、キャリアコンサルティング等	
		社会人基礎能力	社会人基礎力養成、コミュニケーション能力、グループワーク等	
		労働安全衛生概論	労働災害の現状、安全教育の必要性	
		KYT	危険予知訓練	
		リスクアセスメント教育	OSHMS、RAの基本	
		玉掛け技能講習	クレーンの知識、力学、法令、玉掛け方法	
		小型移動式クレーン運転技能講習	移動式クレーンの知識、法令、力学、原動機電気の知識	
		高所作業車運転技能講習	高所作業車の構造、取扱の知識、原動機、力学、法令	
		フォークリフト運転技能講習	走行装置の知識、法令、荷役装置、力学の知識	
		ガス溶接技能講習	可燃性ガス酸素の知識、法令、設備の構造、取扱の知識	
		アーク溶接技能講習	アーク溶接基礎知識、アーク溶接作業の方法の知識、法令	
		研削砥石特別教育	研削砥石取り付け用具の知識、試運転方法の知識、法令	
		丸のこ等の取扱安全衛生教育	丸のこ等に関する知識、作業に関する知識	
		建設業基礎知識	鉄筋、型枠工の基礎知識、建設業専門用語の理解	
		施工図や型枠施工図に関する知識	施工図の基礎知識、記号の理解、通り芯の考え方、寸法の読み方、柱・梁・壁等の考え方、墨出し等	
		型枠現場施工、鉄筋現場施工等に関する知識	鉄筋の種類及び計上、スペーサーの種類、各部配筋の方法、鉄筋施工（図面）、型枠支保工の基礎、圧接について、鉄筋施工（断面）、型枠施工（図面）、型枠施工（断面）	
		職場見学	建設現場の見学	
		職業人講話	建設業界従事者による講話	

委託訓練モデルカリキュラム

実 技	玉掛け技能講習	質量目測、用具選定、合図、玉掛け、実践訓練	12			
	小型移動式クレーン運転技能講習	合図、小型移動式クレーンの運転操作、実践訓練	12			
	高所作業車運転技能講習	高所作業車の作業のための装置の操作、実践訓練	12			
	フォークリフト運転技能講習	走行の操作、荷役の操作、実践訓練	30			
	ガス溶接技能講習	装置の取り付け、設備の取扱い、ガス溶接溶断作業、実践訓練	12			
	アーク溶接技能講習	溶接機の取扱い、アーク溶接作業、実践訓練	12			
	研削砥石特別教育	研削砥石の取り付けと試運転	3			
	丸のこ等の取扱安全衛生教育	丸のこ等の正しい取扱い方法	3			
	型枠現場施工、鉄筋現場施工等に関する技能習得	結束の基本実技、鉄筋組立（ベース）、鉄筋組立（梁）、墨出し実践、型枠材料加工、型枠組立、型枠組立（締固め）、型枠組立（ベース）、鉄筋組立（全体）、型枠組立（全体）	90			
訓練時間総合計		学科	258	実技	186	444
主要な機器設備 （参考）		・実技に関しては、別会場にて実施します。 ・また、実技で必要となる資材、ヘルメットは、別途、準備致します。 ・安全靴等の安全用具は訓練生各自でご用意頂くことがあります。				

科目の内容・細目シート

科目	就職支援、就職基礎能力	時間	36	
到達水準	建設業界の現状を正しく理解し、雇用環境を知っている			
	応募書類作成の基本を理解し、魅力的な応募書類が作成できる			
	面接に関わるマナー・心構えを理解し、事前準備の上実践に臨むことができる			
科目の内容	内容の細目	訓 練 時 間		
		学科	実技	
(1) 応募書類	イ．応募書類の重要性 ロ．応募書類の作成 ハ．職務経歴書の作成 ニ．添え状の重要性 ホ．添え状の作成	12		
(2) 面接トレーニング	イ．面接の目的と心構え ロ．面接の形式 ハ．面接でのチェックポイント ニ．面接の基本マナー ホ．面接の事前準備 ヘ．面接の質問集 ト．面接トレーニング（実践）	12		
(3) キャリアコンサルティング	イ．求人票閲覧のポイント ロ．ハローワーク等の求人紹介 ハ．就職決定時の心構え	12		
合計		36		
使用する機械 器具等				
備 考				

科目の内容・細目シート

[illegible]

科目の内容・細目シート

科目	労働安全衛生概論	時間	12
到達水準	(学科)		
	労働安全衛生法及び同法施行令、施行規則を知っている		
	労働災害統計、労働災害発生の基本原因、ヒューマンエラーについて知っている		
	労働安全衛生マネジメントシステムの概要を知っている		
科目の内容	内容の細目	訓練時間 学科実技	
(1) 労働災害の基本原因	イ.労働災害統計 ロ.労働災害発生のメカニズム ハ.労働安全衛生法令	3	
(2) ヒューマンエラー対策	イ.人はなぜミスをするのか	3	
(3) 安全管理	イ.企業経営と安全管理の必要性 ロ.企業を取り巻く3つの責任	3	
(4) 本質安全化とは	イ.労働安全衛生マネジメントシステム	3	
	合計	12	
使用する機械 器具等			
備 考			

科目の内容・細目シート

[illegible]

科目の内容・細目シート

科目	リスクアセスメント教育	時間	6
到達水準	(学科)		
	リスクアセスメントの目的、考え方、手順を知っている		
	安全衛生作業環境の維持と改善の方法を知っている		
	設備に関する安全上の問題の原因の分析について知っている		
科目の内容	内容の細目	訓 練 時 間	
		学科	実技
(1) 労働安全衛生マネジメントシステムにおけるリスクアセスメントの目的と意義	イ. 労働安全衛生マネジメントシステムの概要 ロ. リスクアセスメントの目的 ハ. リスクアセスメントの考え方	2	
(2) リスクアセスメントの手法	イ. リスクアセスメントの手順 ロ. リスクアセスメントの方法 ハ. リスクの低減対策	2	
(3) リスクアセスメント手法の演習	イ. 個人演習及びグループ演習	2	
	合計	6	
使用する機械器具等			
備 考			

科目の内容・細目シート

科目	玉掛け技能講習	時間	30	
到達水準	(学科)			
	玉掛け作業動作の基本を知っている			
	玉掛けに必要な力学を知っている			
	関係法令を知っている			
	(実技)			
	玉掛けができる			
	質量目測、用具選定ができる			
	クレーン等の運転のための合図を行うことができる			
科目の内容	内容の細目	訓 練 時 間		
		学科	実技	
(1) クレーンに関する知識	イ. 種類及び型式 ロ. 構造及び機能 ハ. 安全装置及びブレーキ	2		
(2) クレーン等の玉掛けの方法	イ. 玉掛けの一般的作業方法 ロ. 玉掛用具等の選定及び使用方法 ハ. 基本動作（安全作業方法を含む） ニ. 合図の方法	8		
(3) クレーン等の玉掛けに必要な力学の知識	イ. 力（合成、分解、つり合い及びモーメント） ロ. 重心及び物の安定 ハ. 摩擦、質量、速度及び加速度、荷重、応力 ニ. 玉掛け用具の強さ	4		
(4) 関係法令	イ. 労働安全衛生法 ロ. 労働安全衛生法施行令 ハ. 労働安全衛生規則 ニ. クレーン等安全衛生規則中の関係条項	2		
(5) クレーン等の運転の為の合図	イ. 手、小旗等を用いて行う合図		2	
(6) クレーン等の玉掛	イ. 質量目測 ロ. 玉掛用具の選定 ハ. 定められた方法による0.5トン以上の質量を有する荷についての玉掛けの基本作業及び応用作業		7	
(7) 学科試験		2		
(8) 実技試験			3	
	合計	18	12	
使用する機械器具等	移動式クレーン、クレーン、吊荷、玉掛け用具全般、皮手、ヘルメット			
備 考				

科目の内容・細目シート

科目	小型移動式クレーン運転技能講習	時間	30	
到達水準	(学科)			
	移動式クレーンの特性や機能を知っている			
	小型移動式クレーンに関する原動機及び電気について知っている			
	関係法令を知っている			
	(実技)			
	移動式クレーンの決められた正しい運転ができる			
	基本的な合図の理解ができる			
科目の内容	内容の細目	訓 練 時 間		
		学科	実技	
(1) 小型移動式クレーンに関する知識	イ. 種類及び型式 ロ. 主要構造部分 ハ. つり上げ、起伏、旋回等の作動をする装置 ニ. 安全装置 ホ. ブレーキ機能 ヘ. 取扱方法	8		
(2) 小型移動式クレーン運転技能講習に係る原動機及び電気に関する知識	イ. 内燃機関 ロ. 油圧駆動装置 ハ. 感電による危険性	4		
(3) 小型移動式クレーンの運転のために必要な力学に関する知識	イ. 力（合成、分解、つり合い及びモーメント） ロ. 重心重量 ハ. 速度及び加速度 ニ. 荷重、応力、材料の強さ ホ. ワイヤロープ、フック及びつり具の強さ ヘ. ワイヤロープの掛け方と荷重との関係	3		
(4) 関係法令	イ. 労働安全衛生法 ロ. 労働安全衛生法施行令 ハ. 労働安全衛生規則 ニ. クレーン等労働安全衛生規則中の関係条項	1		
(5) 小型移動式クレーンの運転	イ. 基本操作、重量の確認、荷のつり上げ ロ. 定められた経路による運搬 ハ. 定位置への荷の卸し		7	
(6) 小型移動式クレーンの運転のための合図	イ. 荷のつり上げ、荷の卸し、荷の水平移動等の合図		2	
(7) 学科試験		2		
(8) 実技試験			3	
		合計	18	12
使用する機械器具等	積載型トラッククレーン、吊荷、ヘルメット、皮手			
備 考				

科目の内容・細目シート

科目	高所作業車運転技能講習	時間	30
到達水準	(学科)		
	作業に関する装置の構造及び取扱いの方法を知っている		
	関係法令を知っている		
	(実技)		
	高所作業車の作業装置の操作ができる		
	安全帯の取り付けができる		
科目の内容	内容の細目	訓練時間	
		学科	実技
(1) 作業に関する装置の構造及び取扱いの方法に関する知識	イ. 高所作業車の種類及び用途 ロ. 作業装置及び作業に関する附属装置の構造及び取扱いの方法	6	
(2) 原動機に関する知識	イ. 内燃機関の構造及び取扱いの方法 ロ. 動力伝達装置及び走行装置の種類	4	
(3) 運転に必要な一般的事項に関する知識	イ. 高所作業車の運転に必要な力学 ロ. 感電による危険性	4	
(4) 関係法令	イ. 労働安全衛生法、労働安全衛生法施行令及び労働安全衛生規則中の関係条項	2	
(5) 作業のための装置の操作	イ. 基本操作 ロ. 定められた方法による作業床の昇降等		9
(6) 学科試験		2	
(7) 実技試験			3
	合計	18	12
使用する機械器具等	高所作業車、安全帯、ヘルメット		
備考			

科目の内容・細目シート

科目	フォークリフト運転技能講習	時間	48	
到達水準	(学科)			
	フォークリフトを安全に運転する方法を知っている			
	荷役に関する装置の構造及び取扱いの方法を知っている			
	運転に必要な力学を知っている			
	(実技)			
	荷役作業等の安全性の維持管理ができる			
	フォークリフトの前照灯、後照灯、ヘッドカバー等の確認ができる			
	フォークリフトを安全に運転（走行操作、荷役操作）できる			
科目の内容	内容の細目	訓 練 時 間		
		学科	実技	
(1) 走行に関する装置の構造及び取扱いの方法に関する知識	イ. フォークリフトの原動機、動力伝達装置、走行装置の構造及び取扱いの方法 ロ. かじ取り装置及び制動装置並びに方向指示器、警報装置の構造及び取扱いの方法 ハ. その他のフォークリフトの走行に関する付属装置構造及び取扱いの方法	6		
(2) 荷役に関する装置の構造及び取扱いの方法に関する知識	イ. フォークリフトの荷役装置、油圧装置（安全弁を含む。）の構造及び取扱いの方法 ロ. ヘッドガード及びバックレスト並びにラム、バケットの構造及び取扱いの方法 ハ. その他のフォークリフトの荷役に関する付属装置の構造及び取扱いの方法	6		
(3) 運転に必要な力学に関する知識	イ. 力（合成、分解、つり合い及びモーメント） ロ. 重量、重心及び物の安定 ハ. 速度及び加速度 ニ. 荷重、応力、材料の強さ	3		
(4) 関係法令	イ. 労働安全衛生法 ロ. 労働安全衛生法施行令 ハ. 労働安全衛生規則中の関係条項	1		
(5) 走行の操作	イ. 基本操作 ロ. 定められたコースによる基本走行及び応用走行		20	
(6) 荷役の操作	イ. 基本操作 ロ. フォークの抜き差し ハ. 荷の配列及び積み重ね		6	
(7) 学科試験		2		
(8) 実技試験			4	
	合計	18	30	
使用する機械器具等	カウンターバランス型フォークリフト、リーチ型フォークリフト、積み荷			
備 考				

科目の内容・細目シート

科目	ガス溶接技能講習	時間	21
到達水準	(学科)		
	ガスの危険性を知っている		
	消火方法を知っている		
	ボンベの取扱い方を知っている		
	(実技)		
	圧力調整器の取り付け、取り外しができる		
	吸い込みがないときの対処方法ができる		
	圧力を調整することができる		
科目の内容	内容の細目	訓 練 時 間	
		学科	実技
(1) ガス溶接等の業務のために使用する設備の構造及び取扱いの方法に関する知識	イ. 可燃性ガスの容器、導管、吹管、圧力調整器、圧力計等の構造及び取扱いの方法 ロ. 酸素の容器、導管、吹管、圧力調整器、圧力計等の構造及び取扱いの方法	3	
(2) ガス溶接等の業務のために使用する可燃性ガス及び酸素に関する知識	イ. ガス溶接等の業務のために使用する可燃性ガスの性状及び危険性 ロ. 酸素の性状及び危険性	4	
(3) 関係法令	イ. 労働安全衛生法 ロ. 労働安全衛生法施行令 ハ. 労働安全衛生規則中の関係条項	1	
(4) ガス溶接等の業務のために使用する設備の取扱い	イ. 可燃性ガスの容器、導管、吹管、圧力調整器、安全装置、圧力計等の取扱い ロ. 酸素の容器、導管、吹管、圧力調整器、安全装置、圧力計等の取扱い		10
(5) 学科試験		1	
(6) 実技試験			2
	合計	9	12
使用する機械器具等	アセチレン、酸素、吹管、圧力調整機、鉄板		
備 考			

科目の内容・細目シート

科目	アーク溶接特別教育	時間	24	
到達水準	(学科)			
	買電（200V）型溶接機の名称と機能を知っている			
	発電型溶接機の名称と機能を知っている			
	溶接棒の種類と使い分けを知っている			
	(実技)			
	溶接機の各種スイッチ操作ができる			
	ビード置き溶接ができる			
	突合せ溶接ができる			
科目の内容	内容の細目	訓 練 時 間		
		学科	実技	
(1) アーク溶接等に関する知識	イ. アーク溶接等の基礎理論 ロ. 電気に関する基礎知識	2		
(2) アーク溶接装置に関する基礎知識	イ. 直流アーク溶接機 ロ. 交流アーク溶接機 ハ. 交流アーク溶接機用自動電撃防止装置 ニ. 溶接棒等及び溶接棒等のホルダー ホ. 配線	3		
(3) アーク溶接等作業の方法に関する知識	イ. 作業前の点検整備 ロ. 溶接、溶断等の方法 ハ. 溶接部の点検 ニ. 作業後の処理 ホ. 災害防止	4		
(4) 関係法令	イ. 法、令及び安衛則中の関係条項	1		
(5) アーク溶接装置の取扱い及びアーク溶接等の作業の方法	イ. アーク溶接装置の取扱い及びアーク溶接等の作業		9	
(6) 学科試験		2		
(7) 実技試験			3	
	合計	12	12	
使用する機械器具等	溶接棒、皮手、溶接機、溶接棒ホルダー			
備 考				

科目の内容・細目シート

科目	研削と石等の取替えの業務特別教育	時間	9
到達水準	(学科)		
	研削砥石の危険性、安全に取り扱うための知識を知っている		
	研削砥石に関する基礎知識を知っている		
	(実技)		
	溶接面をサンダー仕上げ、やすり仕上げができる		
	研削砥石の取り付けと試運転ができる		
科目の内容	内容の細目	訓練時間	
		学科	実技
(1) 自由研削用研削盤、自由研削用といし、取付け具等に関する知識	イ. 自由研削用研削盤の種類及び構造並びにその取扱い方法 ロ. 自由研削用といしの種類、構成、表示および安全度並びにその取扱い方法 ハ. 取り付け具、覆い、保護具、研削液	3	3
(2) 自由研削用といしの取付け方法及び試運転の方法に関する知識	イ. 自由研削用研削盤と自由研削用といしとの適合確認 ロ. 自由研削用といしの外観検査及び打音検査 ハ. 取り付け具の締付け方法及び締付け力 ニ. バランスの取り方 ホ. 試運転の方法	2	
(3) 関係法令	イ. 法、令及び安衛則中の関係条項	1	
(4) 自由研削といしの取付け及び試運転の方法	イ. 自由研削といしの取付け及び試運転		
合計		6	
使用する機械器具等	グラインダー、皮手、保護メガネ		
備考			

科目の内容・細目シート

科目	丸のこの等の取扱い安全衛生教育	時間	6	
到達水準	(学科)			
	丸のこの構造や働きを知っている			
	丸のこの使用する作業に関する知識について知っている			
	(実技)			
	丸のこの正しい取扱いができる			
	丸のこの整備・点検ができる			
科目の内容	内容の細目		訓 練 時 間	
		学科	実技	
(1) 携帯用丸のこ盤に関する知識	イ. 携帯用丸のこ盤の構造及び機能等 ロ. 作業の種類に応じた危機及び歯の選定		0.5	
(2) 携帯用丸のこ盤を使用する作業に関する知識	イ. 作業計画の作成等 ロ. 作業の手順 ハ. 作業時の基本動作(取扱いの基本及び切断作業の方法)		1	0.5
(3) 安全な作業方法に関する知識	イ. 災害事例と再発防止対策について ロ. 使用時の問題点と改善点（安全装置等）		0.5	0.5
(4) 携帯用丸のこ盤の点検及び整備に関する知識	イ. 携帯用丸のこ盤及び歯の点検・整備の方法 ロ. 点検結果の記録		0.5	1
(5) 関係法令	イ. 労働安全衛生関係法令中の関係条項等		0.5	
(6) 携帯用丸のこ盤の正しい取扱い方法	イ. 携帯用丸のこ盤の正しい取扱い方法 ロ. 安全装置の作動状況の確認			1
	合計		3	3
使用する機械器具等	携帯用丸のこ、木材、皮手			
備 考				

科目の内容・細目シート

科目	建設業基礎知識	時間	12	
到達水準	建設現場で働くために、５Ｓ活動と３Ｓ活動の基本姿勢を心得ている			
	建設現場で働くために基礎知識、安全衛生に関して心得ている			
	「ものづくり」マインドを有し、「ものづくり」に関心を有している			
科目の内容	内容の細目	訓 練 時 間		
		学科	実技	
(1) 建設現場で働くための姿勢・活動	イ. 建設業務従事者としての姿勢	1		
	ロ. ５Ｓ活動と３Ｓ活動	1		
(2) 建設現場の基礎知識・安全衛生	イ. 建設業務に関する知識	3		
	ロ. 安全衛生	3		
(3) 鉄筋、型枠に関する基礎知識	イ. 鉄筋に関する基礎知識	2		
	ロ. 型枠に関する基礎知識	2		
		合計	12	
使用する機械器具等				
備 考				

科目の内容・細目シート

[illegible]

科目の内容・細目シート

科目	型枠現場施工、鉄筋現場施工等に関する知識・技能習得	時間	138	
到達水準	型枠現場における原寸墨だし、原寸加工に関する知識および技能の習得。			
	型枠組み立て、締め付け、鉄筋の組み立てに関する知識および技能。			
科目の内容	内容の細目	訓 練 時 間		
		学科	実技	
(1) 鉄筋現場施工等に関する知識	イ. 鉄筋の種類及び計上	3		
	ロ. スペーサーの種類	3		
	ハ. 各部配筋の方法	3		
	ニ. 鉄筋施工（図面）	6		
	ホ. 鉄筋施工（断面）	9		
(2) 型枠現場施工等に関する知識	イ. 型枠支保工の基礎	3		
	ロ. 圧接について	3		
	ハ. 型枠施工（図面）	9		
	ニ. 型枠施工（断面）	9		
(3) 鉄筋現場施工の実技・技能習得	イ. 結束の基本実技		6	
	ロ. 鉄筋組立（ベース）			9
	ハ. 鉄筋組立（梁）			9
	ニ. 鉄筋組立（全体）			12
(4) 型枠現場施工の実技・技能習得	イ. 墨出し実践		9	
	ロ. 型枠材料加工			6
	ハ. 型枠組立			9
	ニ. 型枠組立（締固め）			9
	ホ. 型枠組立（ベース）			9
	ヘ. 型枠組立（全体）			12
	合計			48
使用する機械器具等				
備 考				

科目の内容・細目シート

科目	職場見学	時間	9
到達水準	臨場感と就労意欲の向上を増幅させる		
科目の内容	内容の細目	訓 練 時 間 学科実技	
(1) 建設現場の見学	イ. 建設現場の見学	3	
	ロ. 建設現場の見学	3	
	ハ. 建設現場の見学	3	
	合計	9	
使用する機械 器具等			
備 考			

科目の内容・細目シート

科目	職業人講話	時間	3	
到達水準				
科目の内容	内容の細目	訓 練 時 間		
		学科	実技	
職業人講話	イ. 建設、建築業に係る講話 ロ. 鉄筋型枠業に係る講話 ハ. 物流業に係る講話	3		
		合計	3	
使用する機械 器具等				
備 考				

使用教材リスト

訓練科名：建設基礎人材育成科

教材名	出版社名	教材使用科目（分野）
基礎教材 建築施工	井上書院	建築基礎（型枠）、建築基礎（鉄筋）
玉掛け作業者必携 （技能講習用テキスト）	（社）日本クレーン協会	玉掛け技能講習
小型移動式クレーン運転 （技能講習用テキスト）	（社）日本クレーン協会	小型移動式クレーン運転技能講習
高所作業車運転者教本 （技能講習用テキスト）	建設業労働災害防止協会	高所作業車運転技能講習
フォークリフト運転テキスト	中央労働災害防止協会	フォークリフト運転技能講習
ガス溶接・溶断の安全	中央労働災害防止協会	ガス溶接技能講習
クレーンの運転 （特別教育テキスト）	（社）日本クレーン協会	クレーン運転特別教育
アーク溶接等の作業の安全	中央労働災害防止協会	アーク溶接特別教育
グラインダ安全必携	中央労働災害防止協会	研削砥石特別教育
リスクアセスメント担当者の実務	中央労働災害防止協会	リスクアセスメント
丸のこ等取扱作業の安全	中央労働災害防止協会	丸のこ等の取扱安全衛生教育
就職支援	—	就職支援分野
社会人基礎力	—	社会人基礎力分野、職場見学
安全衛生	—	安全衛生分野、KYT分野

※上記については、特定の出版社および書籍の宣伝や推奨をするものではありません。最終判断はご利用者自身となりますのでご注意ください。各教材の詳細情報や最新情報を取得したい場合は、出版社情報等を参考に各自でお問い合わせください。